

平成23年度  
事業報告書

川崎市総合教育センター

## はじめに

平成 23 年度は、川崎の教育の基本的な考え方と方向性を示した「かわさき教育プランー第 3 期実行計画」実施の初年度にあたります。具体的には、『共に生き、共に育つ環境を創り、心を育む』『地域の中の学校を創る』『学校の教育力を高め、確かな学力を育成する』『「まち」の強みを活かして川崎に育つ子どもに将来の夢を育む』『安全・安心で快適な教育環境を創る』『共に学び、楽しみ、活動する生涯学習社会を創る』の 6 項目の重点施策が示されています。

また、平成 20 年 3 月に教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成するという基本的な考え方のもとに新しい学習指導要領が改訂告示されたことを受けて、小学校は、その全面実施の年であり、中学校は 24 年度からの全面実施に向けての移行期間でした。

こうした状況を踏まえながら、当センターでは、様々な教育課題への対応と教職員の資質や指導力の向上をめざして、調査・研究、研修、相談等、多方面にわたる事業を行ってまいりました。

この報告書は、当総合教育センターが開設されて 26 年目に当たる平成 23 年度の運営および実施事業についての概要をまとめたものです。このたびの特色といたしましては、大きく次の 6 点を挙げることができます。

- ①指導主事による調査・基礎研究、長期研究員等による実践研究に取り組むとともに、拡大要請訪問や研修講師派遣事業及び学習指導案データベースの構築等を通して、各学校の授業の改善・支援に取り組んだこと
- ②教職員の資質や指導力の向上をめざし、初任者研修・年次研修等のライフステージに応じた研修、管理職研修や職に応じた研修等の必修研修並びに希望研修の内容の一層の充実に努めたこと
- ③5年10年先を見据えた「教育の情報化推進計画」策定に向けた「ICT 機器活用調査」の実施、KEINS-NET や SAINS の運用管理、児童生徒の情報活用能力の育成及び教員の ICT 活用指導力の向上を目指した研修・研究の充実に努めたこと
- ④学校における多様な相談ニーズに応えるために、スクールカウンセラー配置事業においては、中学校の継続配置のほか、小学校・高等学校を対象に学校巡回カウンセラーを配置・派遣して相談体制の充実に努めたこと、また、継続研究として不登校未然防止の実践研究を進めたこと
- ⑤川崎市特別支援教育推進計画の展開や各学校への巡回相談員・巡回指導員・特別支援教育サポーター・指導主事の派遣等、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの活動支援の他、学校支援に努めるなど、特別支援教育体制充実の推進を図ったこと
- ⑥社会教育部門においては、視聴覚教材・機材関連の整備・貸出・技術講習を進めたこと

今後、学校教育の課題は、ますます多様化・複雑化するであろうと思われます。それらの一つ一つに適切に対応し、21 世紀にふさわしい川崎の教育の明るい未来を切り拓いていくために、今後とも学校支援の在り方等を見据えてセンター事業の一層の充実に目指していきたいと存じます。

最後になりましたが、当センターの運営・事業展開に当たり、ご指導とご支援を賜りました多くの皆様方に心より感謝を申し上げます。

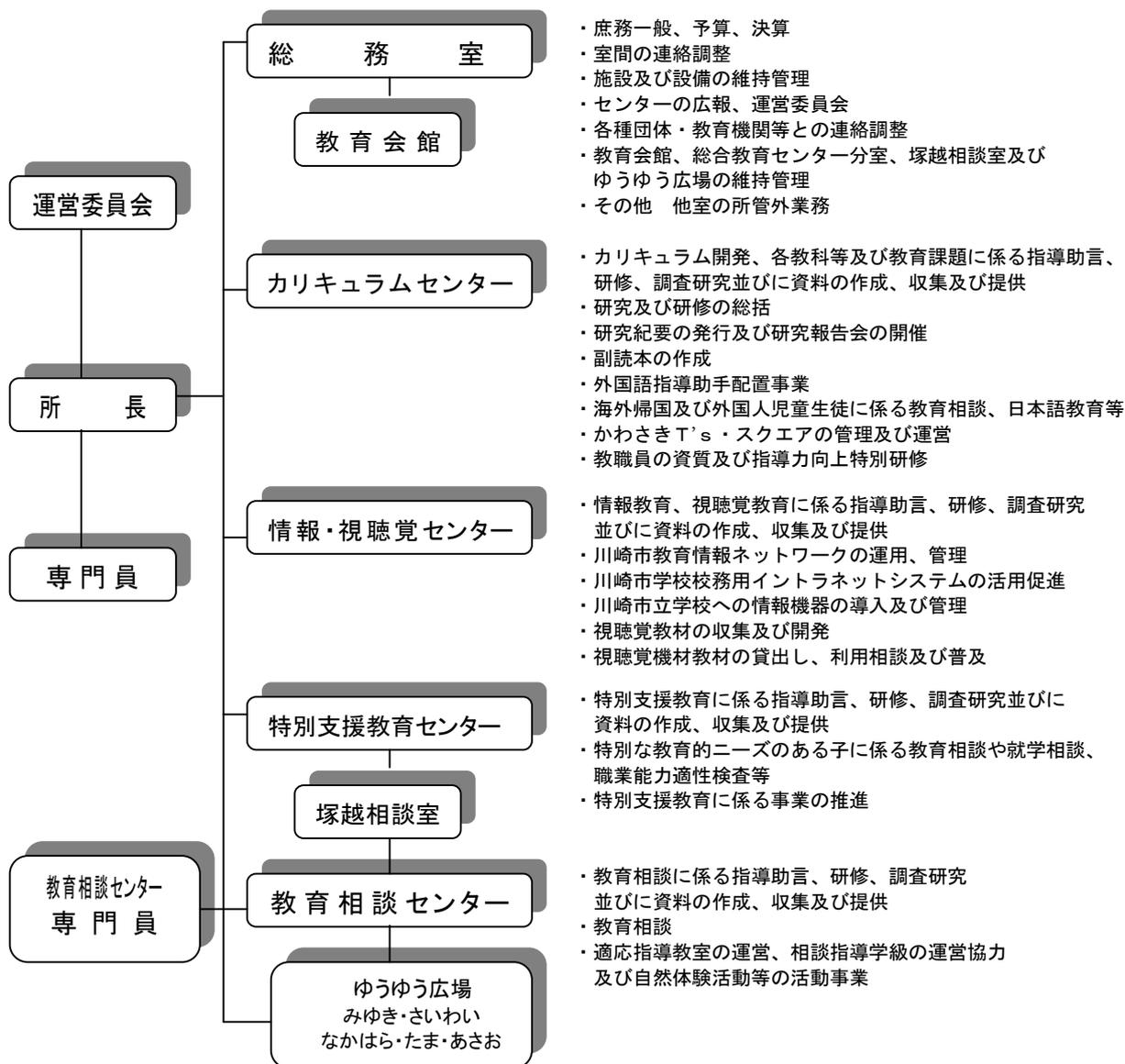
平成 24 年 6 月

川崎市総合教育センター  
所長 鈴木 浩 之

## 目 次

組織・事務分掌	1
所員一覧	2
運営委員	3
予 算	4
研究体系図	5
1 調査研究	6
2 教育関係教職員研修	15
3 情報教育	26
4 視聴覚教育	30
5 特別支援教育	32
6 教育相談	37
7 外国語指導助手配置	42
8 海外帰国・外国人児童生徒	43
9 カリキュラムセンター事業	44
10 広報及び刊行物等	46

# 組織・事務分掌



## 会議

- 管理者会議(月2回・第2、4火曜日)  
センターの管理運営に係る重要事項について審議する。
- 専門職等会議(月1回・第4月曜日)  
業務の円滑化を図るため、担当の枠を越え審議、検討する。
- 学校教育部・総合教育センター等連絡調整会議(年3回)  
学校教育部、区担当、総務部教育改革推進担当及びセンターの連絡調整並びに情報の共有化を図る。
- 所員会(年間7回・月末の水曜日)  
所員が一堂に会し、センターの諸事項について共通理解を図る。

## 担当者会議(月1回・第1月曜日)

- 研究推進担当者会議  
研究の全体計画、教育基本調査の推進、研究会議の調整、推進
- 研修推進担当者会議  
研修の全体計画、調整、推進
- 情報化推進担当者会議  
情報教育に係る課題の調査及び研究の推進  
図書資料の収集、提供についての計画、推進
- 広報担当者会議  
所報の発行、センターの広報活動の計画、推進

## 指導主事研修(年10回)

- 指導主事の役割についての共通理解や資質・能力の向上を図る。

# 所 員 一 覧

平成23年4月1日 現在

所属	職 名	氏 名	所属	職 名	氏 名	所属	職 名	氏 名	
	理事・所長	竹田 文夫	カリキュラムセンター	室長	稲毛 伸幸	特別支援教育センター	室長	巴 好子	
	担当課長	行川 博幸		担当課長	大久保 光		指導主事	指導主事	片山 純子
	担当課長	井上 明彦		" (併)	佐藤 公孝		充て指導主事	充て指導主事	吉田 宴
総務室	室長	天野 利明		指導主事	諏佐 裕子		"	"	宮川 淳子★
	課長補佐	山科 好子		"	仲野 雅子		"	"	稲葉 武★
	主任	長澤 久美		充て指導主事	水之江 忠		"	"	高木 幸江
	"	森 正		"	須山 佳代子		"	"	伊藤 琢也
	"	込宮 智子		"	南谷 隆行		"	"	
	事務職員	天野 由幸		"	榎原 真也		"	"	
"	飯塚 望	"		網屋 直昭	"		"		
担当係長	渋谷 昌広	"	中西 憲子	"	"				
	担当係長	竹下 和洋	"	明瀬 正一	教育相談センター	室長	堀米 達也★		
情報・視聴覚センター	室長	阿部 厚	"	川野 佳秀	指導主事	指導主事	松崎 哲範★		
	課長補佐	高橋 慶子	"	森島 烈	充て指導主事	充て指導主事	新井 紀代美		
	担当係長	塩澤 太	"	縄田 芳信	"	"	鈴木 廣和★		
	主任	平田 美保	"	藤中 大洋	カウンセラー研究員	カウンセラー研究員	高村 寛		
	指導主事	樋口 彰	"	布川 広	専任教諭	専任教諭	中川 薫		
	充て指導主事	坂牧 秀則	"	野田 まなみ					
	"	熊谷 顯太郎	"	安藤 勉					
	"	栃木 達也	長期研究員	後藤 美智子					
	長期研究員	椎名 美由紀	"	堀江 賢司					
			"	梶 康子					
		"	岡本 由希子						
		"	松本 智春						
		"	富樫 昌克						
		"	専門研究員						

★＝塚越相談室勤務

# 専 門 員

氏 名	現 職	専 門 領 域
天笠 茂	千葉大学教授	総合・特活
工藤 文三	国立教育政策研究所初等中等教育研究部長	教育課程
高木 展郎	横浜国立大学教育人間科学部附属教育デザインセンター長	学習評価
森本 信也	横浜国立大学教授	教育評価
小林 宏己	早稲田大学教授	カリキュラム開発
植田 誠治	聖心女子大学教授	健康教育
佐藤 郡衛	東京学芸大学副学長	国際理解教育
岡田 弘	東京聖栄大学教授	学級経営
黒沢 惟昭	東北師範大学名誉教授(中国)	学社融合
原 克彦	目白大学教授	教育情報ネットワーク
野中 陽一	横浜国立大学准教授	教育の情報化
土谷 良巳	上越教育大学大学院教授	教育心理学
霜田 浩信	群馬大学准教授	特別支援教育
田中 信市	東京国際大学大学院教授	臨床心理学
芳川 玲子	東海大学教授	教育相談

# 教育相談センター専門員

氏 名	現 職	専 門 領 域
古荘 純一	青山学院大学教授	小児精神医学
鶴養 啓子	昭和女子大学教授	臨床心理学

## 川崎市総合教育センター運営委員 (敬省略)

氏名	現職	専門領域
	川崎市学校保健会会長	学校保健
	川崎市PTA連絡協議会会長	社会教育
	中央大学名誉教授	生涯学習
	横浜国立大学教授	学校経営
	横浜国立大学客員教授	理科教育
	白鷗大学教授	情報教育
	国土舘大学教授	保健体育
	神奈川県警少年育成課 少年相談・保護センター所長	児童生徒指導
	産業能率大学名誉教授	言語教育
	玉川大学継続学習センター客員講師	人間理解
◎	横浜国立大学教授	特別支援教育
○	川崎市立小学校長会会長 川崎市立今井小学校長	小学校教育
	川崎市立中学校長会会長 川崎市立川中島中学校長	中学校教育
	川崎市立高等学校長会会長 川崎市立高津高等学校長	高校教育
	川崎市特別支援学校長会会長 川崎市立豊学校長	特別支援教育
	川崎市教職員組合執行委員長	学校教育
	川崎市教職員組合教文部長	学校教育
	川崎市公立学校管理職組合執行委員長 川崎市立中野島中学校長	学校教育

- ◎ 委員長  
○ 副委員長

# 予 算

単位 千円

科 目	年 度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
		千円	千円	千円
総合教育センター費		876,391	1,121,629	826,476
教育調査研究費		32,689	29,690	30,290
教職員等研修費		21,965	22,110	23,332
教育相談費		82,785	85,070	88,949
適応教室運営費		79,023	79,709	116,234
教育情報ネットワーク事業費		209,587	208,590	190,118
視聴覚教育費		2,723	2,536	6,135
平和教育推進費		1,114	1,173	1,235
外国語指導助手配置事業費		258,252	229,095	188,520
海外帰国子女等関係費		56,907	49,740	35,835
理科支援員等配置事業		31,338	48,998	45,300
カリキュラムセンター事業費		596	646	596
センター・塚越相談室運営管理費		81,371	343,322	78,901
教育会館運営管理費		12,101	12,328	12,470
総合教育センター分室運営管理事業費 (幼児教育センター等運営管理事業費)		4,740	7,422	7,361
その他経費		1,200	1,200	1,200
総合教育センター費外		1,184,315	1,196,094	1,100,106
学校教育活動支援事業費		497	514	1,058
児童生徒・指導相談業務費		103,271	103,271	98,701
教育課程・学習指導に関する事務		23,346	22,633	32,062
特別支援教育サポーター配置事業		59,404	56,779	48,352
学校評価システム調査研究事業費		0	1,645	3,598
情報化教育推進事業費		995,731	1,008,413	913,171
人権教育推進事業費		656	1,243	1,285
子どもの権利学習等推進事業費		1,410	1,596	1,879

# 川崎市総合教育センター 平成23年度研究体系図概要版

教育基本法、学校教育法  
新しい学習指導要領

## 総合教育センター研究

かわさき教育プラン  
の目標及び重点施策

### 研究総括主題：「生きる力」を育む川崎の教育の創造

## 実践研究

センターの総合力を生かした実践研究

### 研究主題：実感ある学びを創造する授業の在り方

- 指導主事による教員の資質向上・授業力向上に向けた研究
- 各教科等に係る指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした研究
  - 長期研究員と研究員による研究（5）
    - ・ 算数・数学（中）
    - ・ 総合的な学習の時間（小）
    - ・ 言語活動の充実（中）
    - ・ ICT教育活用（小）
    - ・ 高校教育
  - 指導主事と研究員による研究（12）
    - ・ 国語
    - ・ 音楽
    - ・ 体育・保健体育
    - ・ 技術
    - ・ 道徳
    - ・ 特別活動
    - ・ 小学校外国語活動
    - ・ 教育資料収集
    - ・ 健康教育
    - ・ 情報モラル教育
    - ・ 学校教育相談
    - ・ 特別支援教育
  - 専門研究員による研究
  - カウンセラー研究員による研究

＜実践研究に重点＞

教育的瞬間を見逃さない授業研究を促進することで個々の教員の資質の向上と同僚性のある創造的な学校づくりをめざす

各学校と協力しての実践研究

- 市内各学校との共同研究
  - 情報教育共同研究（南百合丘小）
  - 研究推進校、小中連携、授業力向上
  - 特別支援

他都市と協力しての共同研究

## 調査・基礎研究

実践研究を下支えする調査研究

- 教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究
- 各室が目的に応じて川崎市小中学校を対象に実施

- 指定都市教育研究所連盟
- 神奈川県教育研究所連盟
- 関東地区教育研究所連盟、全国教育研究所連盟と連携した研究
- 第16次共同研究
- 研究発表大会における研究報告

# 1 調査研究

## 1 センター研究の基本的な捉え方について

総合教育センターでは、設立以来、多様化する教育課題等を踏まえ川崎の教育の創造と発展に資することを目的とした調査研究を行っており、研究の推進に当たっては、「基礎的研究の推進」「実践的研究の推進」「先導的研究の推進」を基本的な3つの視点として位置付けている。

総合教育センターは従来の「研究・研修」に加え、平成17年度の学校教育部からの業務の移管に伴い、各教科等や教育課題等に係る各学校に対する指導業務を担う立場となった。このことにより、指導主事が学校等の要請に応じて学校を訪問し、授業研究や校内研修等において指導や支援に携わりながら、各学校の子どもたちの実態や授業における指導の状況等を直接把握することが可能となっている。

そこで、これからの総合教育センターの研究では、これまでの研究の基本的な視点は踏襲しつつも、本市の子どもたちや学校の実態等を踏まえた上での各教科等に係る指導方法の改善や教師の授業力の向上等を目指す実践的な内容を研究の中心に据えて推進する。(別紙「研究体系図」参照)

### ◇実践研究

- 各教科等教育活動に係る指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした研究
- 各教科等の教育指導のための教材・資料等の作成・開発を目的とした研究
- 長期研究員・研究員による研究会議
  - 算数・数学、総合的な学習の時間、言語活動の充実、ICT教育活用、高校教育
- 指導主事・研究員による研究会議
  - 国語、音楽、体育・保健体育、技術、道徳、特別活動、小学校外国語活動
  - 教育資料収集、健康教育、情報モラル教育、学校教育相談、特別支援教育
- 専門研究員、カウンセラー研究員の研究

### ◇調査・基礎研究

- 指導主事による本市の教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究
- 指導主事研究
  - カリキュラムセンター、情報・視聴覚センター、教育相談センター、特別支援教育センター

### ◇共同研究

- 委員会との研究
  - ・授業力向上支援事業研究協力校
  - ・小中連携教育カリキュラム開発研究校
- 他都市との研究
  - ・指定都市共同研究
    - 指定都市教育研究所連盟 第16次担当者会
  - ・全国教育研究所連盟
  - ・神奈川県教育研究所連盟
  - ・関東地区教育研究所連盟
- 学校との研究
  - ・コンピュータ教育利用共同研究

## ◇実践研究

### 確かな知識を身に付けるための指導に関する研究

(算数・数学研究会議)

算数・数学の知識を、ただ覚えるのではなく、公式や定理が導かれる過程が理解できたり、知識を具体的な場面で使えたりできるような「確かな知識」として身に付けるための指導について研究した。

本研究では、手順や方法を「比べる」学習活動と、学習した知識を使ったという実感をもたせるために、一度学習した内容を「想起する」学習活動を取り入れた。これにより子どもが確かな知識を身に付ける学習を進められることが確認できた。また、「比べる」「想起する」活動には「どちらがよいか考える」「それぞれのよさを考える」という2つの側面があることも見えてきた。

<スタッフ> 堀江 賢司(長期研究員)

村木 涼子(研究員) 向井 たか子(研究員) 梶 秀紀(研究員)

### 総合的な学習の時間を充実させる探究的な学習

(総合的な学習の時間研究会議)

本研究では、総合的な学習の時間における探究的な学習を通して、児童生徒に「自ら学び自ら考える力」を育むことを目的とし、「整理・分析」に視点をあてた研究を行った。

検証授業では、考える活動に有効である思考ツールを取り入れながら、児童生徒が「知りたい」「分かってほしい」という課題意識を切実にもって「整理・分析」の活動に取り組むような授業を進めることを試みた。授業を通し、自分たちの考えたことが次の学びにつながると分かることで、児童生徒が考える活動に有用性を感じ、意欲的に学習に取り組む姿が見えてきた。

<スタッフ> 梶 康子(長期研究員)

山口 敦子(研究員) 奥澤 司(研究員) 近藤 陽平(研究員)

### 思考力・判断力・表現力を育む学習活動の工夫

(言語活動の充実研究会議)

本研究では、思考力・判断力・表現力を育む学習活動を行うために、言語活動における学び合いを生かした授業づくりの研究をした。

具体的には、問題解決的な学習の中で、問題解決プロセスを大事にし、学び合うことに重点を置いた授業を行った。その際に、学び合いの方法や方向性を示すための教師の手だてを行い、思考過程の可視化を図るようにした。思考力・判断力・表現力を育むためには、言語を通した学習活動を充実させるとともに、何よりも教師がそれを意識的に取り入れていくことが大切であるということが明らかになった。

<スタッフ> 岡本 由希子(長期研究員)

西村 勇一郎(研究員) 高橋 健一郎(研究員) 根田 もゆる(研究員)

### 確かな学力を育む授業づくりをめざして

(ICT教育利用研究会議)

新学習指導要領では、教科指導の中でもICTを効果的に活用し、児童生徒の学力の向上につなげていくことが重要であることが示された。そこで、知識・技能を習得する「土台づくりの場」とそれらを活用する「交流の場」を意識し、それぞれの場の中でICTの効果をいかす授業づくりをすることを提案した。3つの検証授業から、意識的にICTを授業にいかすことで、視覚的效果から多くの子どもたちに分かりやすい授業が可能になること、また、考えの根拠を共有できることから話し合いをしやすくなることが確認できた。ICTを効果的に授業にいかすことが学力の向上につながることが見いだせた。

<スタッフ> 椎名美由紀(長期研究員)

福山 創(研究員) 井上 潔(研究員) 渡辺 槇子(研究員)

## 教科におけるキャリア教育の研究

(高校教育研究会議)

キャリア教育を取り入れた授業を日常的に実践するための、各教科・科目に共通する授業づくりの考え方や手順を示すことが、本研究が前年度から引き継いだ課題であった。

今回のキャリア教育の視点を取り入れた授業づくりでは、従来の授業の指導計画にある、生徒観、教材観、指導観をそれぞれ、キャリア発達の視点、つながりの視点、能力育成の視点によって見直すことで、その考え方や手順を示すことにした。検証授業を行い、生徒への事前・事後アンケート調査やワークシートから、日常生活とのつながりや将来の仕事などへのつながりが実感できる授業となっていたことが分かり、学ぶ意欲の向上も確認することができた。

<スタッフ> 松本 智春(長期研究員)

白川 賢一(研究員) 牛木 寿美(研究員) 高橋 利之(研究員)

## 小学校・中学校のつながりを考えた伝統的な言語文化に関する指導

(国語科指導主事と研究員による研究)

「伝統的な言語文化に関する事項」に示されている音読や暗唱の事項、ジャンルや昔の人のものの見方や感じ方などにふれる事項に着目し、同系統の学習において子どもたちが身に付けるべき力の違いを明らかにした授業を提案したいと考えた。小学校での音読の経験が古典を学ぶ意欲を高め、中学校での朗読をより豊かにしていく可能性があることが分かった。また「書くこと」や「読むこと」などの領域の学習と関連させ、自分の考えを表現することを通して指導することが有効であることが分かった。

<スタッフ> 須山 佳代子(指導主事) 菅野 明美(研究員) 原 なつき(研究員)

菊地 圭子(研究員) 山田 祥子(研究員)

## 思いをもって豊かに表現する力を育む音楽科の授業をめざして

(音楽科指導主事と研究員による研究)

一人一人の児童生徒が、音楽を形づくっている要素を手掛かりとしながら、どのように表現するかについて思いや意図をもてるような授業となるよう、指導の手立ての工夫と評価について考えることとした。知覚・感受、表現の工夫の一連の過程が可視化できるようなワークシートの工夫、演奏を試しながら意見交換するなどの学び合いの場面の設定、技能の高まりにつながっていく様子を見取る工夫、「音楽づくり・創作の発想を引き出すためのルール」の明示等、音楽表現への思いを膨らませていく過程を意識して指導することが、子どもたちの豊かな表現に重要であることが分かった。

<スタッフ> 仲野 雅子(指導主事) 毛利 友紀(研究員) 篠塚 真理子(研究員)

神谷 由理(研究員) 篠木彩友美(研究員)

## 小学校・中学校のスムーズな接続をめざした学習過程の工夫

(体育・保健体育科指導主事と研究員による研究)

今回の学習指導要領では小4～中2までの4年間をひとまとまりと考え、「多くの領域の学習を経験する時期」と位置付けられた。そこで、小学校から中学校へのスムーズな接続のためには、どのような学習過程を組んでいったらよいかを明らかにしていきたいと考えた。各学校での実践を通して、学習指導要領の内容の十分な理解、特性に触れ楽しく技能が習得できる授業、異校種の学習内容の把握がスムーズな接続のためには重要であることが分かった。

<スタッフ> 森島 烈(指導主事) 原 剛(研究員) 佐藤 大樹(研究員)

千葉 哲也(研究員) 津曲 三紀(研究員)

### 技術・家庭科における安全指導の工夫

(技術・家庭科指導主事と研究員による研究)

技術・家庭科ではより一層実践的・体験的な活動を通し、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養うことが求められている。そこで、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。特に、機器類、刃物類、引火性液体、電気、ガス、火気などを取り扱って実習するため、安全の保持に十分留意して学習指導を行う必要がある。そのため、事故防止に努める具体例や食品についても安全で衛生面に留意した具体例を挙げた技術・家庭科安全ハンドブックを作成することとした。その結果、具体例を図示することで、教員の安全に関する意識が向上し、繰り返し指導することで生徒に定着していくことが分かった。

<スタッフ> 野田 まなみ (指導主事) 布川 広 (指導主事) 矢澤 匡彦 (研究員)  
田中 伸英 (研究員) 山口 三枝子 (研究員) 濱 晴奈 (研究員)

### 児童生徒の道徳性を養うための「心のノート」の活用

(道徳指導主事と研究員による研究)

平成23年度より、心のノートが文部科学省ホームページに掲載されることになった。これはより使い方の幅を広げることができるようにと考えられたものである。そこで、心のノートの活用の仕方を探り、その効果を考えていく中で道徳教育の充実を図ることができるようにしたいと考えた。

委員会活動など学校教育の中での活用や道徳の時間の導入や終末での活用、さらには道徳の時間の主たる資料としての活用も試みた。アンケートの結果や道徳の時間での児童生徒の発言などから、児童生徒の道徳性を養うような活用について、いくつかの事例を考えることができた。

<スタッフ> 水之江 忠 (指導主事) 岡部 啓子 (研究員) 牧寺 広作 (研究員)  
中澤 英之 (研究員) 山本 澄代 (研究員)

### 児童生徒の成長に応じた学級活動の展開の工夫

(特別活動指導主事と研究員による研究)

現在、子どもたちは友達のことや仲間のことなどで悩む子どもが増え、人間関係の形成が困難かつ不得意になってきていることが指摘されている。小・中学校での学級会を通し、話し合いをする経験を積み重ねることで、集団の中でよりよい人間関係を築き、互いの思いや考えを尊重し合って生活することの大切さを学ぶ。研究の結果、学級会を柱とした学級活動の計画と運営を示すこと、望ましい学級会の展開の仕方を示すこと、学級会の実施に関わる具体的な手立てを示すことで、学級全体での話し合い活動を軸とした学級活動を展開できることが見えてきた。

<スタッフ> 川野 佳秀 (指導主事) 丹沢 恵美子 (研究員) 秦 麻弥 (研究員)  
齋藤 健太郎 (研究員) 横山 容子 (研究員)

### コミュニケーション能力の素地を育む外国語活動の工夫

(小学校外国語活動指導主事と研究員による研究)

平成23年度、小学校の改訂学習指導要領が全面実施されたが、本研究会議で行ったアンケートからは、指導に関して、「意欲的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成のために、どのように単元を構成し、授業においてどのような具体的な工夫が必要なのか分からない。」というような不安や疑問を教員が抱えていることが明らかになった。本研究では、コミュニケーション能力の素地を養う3つの柱のうちの「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」に焦点を当て、児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための効果的な授業について、具体的な指導案とともに提案する。

作成した授業は、通常の授業として児童に、模擬授業として教員を対象に実施され、その双方において、所期の目的を達成していることが確認された。

<スタッフ> 明瀬 正一 (指導主事) 青木 聖子 (研究員) 毛塚 潤子 (研究員)  
竹内 茜 (研究員) 豊竹 美喜子 (研究員)

## 健康と生活の関連性を意識し、生活をとのえる力を育む健康教育の工夫と展開

(健康教育指導主事と研究員による研究)

保健室でみられる生活習慣の乱れからくる子どもたちの体調不良について取り上げ、その要因の一つに「子どもたちは、健康と生活の関連性に気付いていない」のではないかということが挙げられた。そのことから、健康と生活の関連性を意識させる場を設定する健康教育を検討した。特に保健学習と関連させた保健指導を工夫するとともに、保健指導の前後の活動を含め養護教諭の専門性を生かして学級担任と連携した健康と生活の関連性を意識させる健康教育の工夫や展開では、子どもたちが生活をとのえ、健康な生活を実践していこうとする意欲や態度を育むことにつながることが分かった。

<スタッフ> 後藤 美智子(指導主事) 永島 宏美(研究員) 湯本 みゆき(研究員)  
河原 明美(研究員) 武井 知里(研究員)

## だれでもできる情報モラル教育

(情報モラル教育指導主事と研究員による研究)

学習指導要領が改訂され児童生徒への情報モラル教育を各教科で実施することが明記された。背景には、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、さらに犯罪や違法な情報・有害情報などの問題が発生している現状がある。また、情報社会に積極的に参画する態度を育てることも求められており、情報モラルを身に付ける必要性がさらに高くなってきている。全ての教員が取り組んでいく必要性があり、すぐに取り組めるような事例を整えるべく授業実践をおこなった。

<スタッフ> 熊谷 顯太郎(指導主事) 山里 昌士(研究員) 加藤 愛(研究員)  
根本 香織(研究員) 中井 有希子(研究員)

## 心の居場所としての学級づくりをめざして

(学校教育相談指導主事と研究員による研究)

学校生活の基盤は学級であり、心の居場所としての学級をつくることが不登校の未然防止に有効であると考えられる。そこで、学級担任が学校グループアプローチを実施することにより、学級の雰囲気などのような影響を与えるかを研究した。その結果、学級担任が教育相談的なかわりを大事にしながら、学級活動や授業で学校グループアプローチを実施することにより学級の雰囲気が高まり、心の居場所としての学級づくりの一つの手立てになることが分かった。

<スタッフ> 鈴木 廣和(指導主事) 堤 康一(研究員) 山田 礼子(研究員)  
藤山 昭子(研究員) 加賀 勉(研究員)

## 通常の学級における特別支援教育

(特別支援教育指導主事と研究員による研究)

学校と地域支援チーム(特別支援学校地域支援部、通級指導教室担当、巡回指導員、センター指導主事から構成)が連携して、どのような児童・生徒でも分かりやすい授業、安心できる教室の基盤づくりを考えた。学級の中で支援が必要な児童・生徒を念頭に、個への支援ではなく学級集団への支援に視点を当てて、学校独自のチェックリストを作成・利用した授業づくりや、共生共育プログラムの効果測定を活用した学級づくりについて検討し、学校で使いやすい支援方法の一例を提案した。

<スタッフ> 宮川 淳子(指導主事) 高橋 晴代(研究員) 谷戸 ゆきみ(研究員)  
杵渕 敬子(研究員) 村越 淑美(研究員)

## コミュニケーション能力の向上をめざした英語指導法の研究

(専門研究)

生徒が英語を学ぶ際に、「英語で上手にコミュニケーションをするために、発音をもっと多く学びたい」という要望がある。そこで本研究では、既存の教材や方法に工夫を加えることにより、生徒のコミュニケーション能力がさらに向上するのに有効な音声指導の研究を行った。

具体的には、言語によるコミュニケーション能力のうち「聞き取る力」と「伝える力」に焦点を当て、この2つの力の向上をめざしながら、授業のさまざまな場面でシャドーイングを中心とした音読練習を取り入れた。さらに授業評価アンケートの利用により、実践の結果が英語学習の意欲にどの程度影響を与えているかを確認し、研究に生かした。結果として特に「伝える力」を向上させることができた。

<スタッフ> 富樫 昌克 (専門研究員)

#### 中学校における教育相談の実践

(カウンセラー研究)

本研究では、学校全体で教育相談的なかかわりを意識することにより、生徒がどのように変容するのかを考察した。その中で、生徒が他者を思いやり、共感的人間関係を築こうとすることを目指した、「育てる教育相談」を実践していくことの有効性について考えた。

教師の意識が変化することにより、学校全体に教育相談的なかかわりが増え、生徒に共感的人間関係が生まれ、自己存在感の充実が図られ、積極的な行動へと変化すると考えた。本研究から学んだことを学校で実践し、変容が見られたことについて報告した。

職員研修会後には、教育相談に対する教師の意識が高まった。また、傾聴・受容を大切にしていた定期相談では、相談の様子に変化が見られた。学校生活の様々な場面において、教育相談的なかかわりをするにより、生徒自身が少しずつ前向きな気持ちで生活しようとする姿勢が見られた。

<スタッフ> 高村 寛 (カウンセラー研究員)

### ◇調査・基礎研究

#### 平成23年度 小・中学校教育基本調査

(カリキュラムセンター指導主事研究)

カリキュラムセンターでは、川崎市の小・中学校の児童生徒の実態を把握し、結果をこれからの教育の在り方や内容などを研究するための基礎資料とすることを目的として基本調査を行った。

調査の内容は、子どもたちの生活と学習に関する実態についての内容で、家庭・地域社会における生活、家庭・地域社会における学習、学校における生活、学校における学習の4つを観点とした39問を設定した。

調査結果は、平成23年度の調査結果から顕著に見えてきたことと、平成17年度実施の第1回基本調査との経年比較により顕著に見えてきたことの2つの視点で分析を行った。また、各章ごとに考察とまとめをし、学校に向けた提言とした。

<スタッフ> カリキュラムセンター指導主事

#### 授業力向上を図るための校内授業研究会のあり方

(カリキュラムセンター指導主事研究)

カリキュラムセンターでは、小学校研究主任へのアンケート及び若手研究主任への聞き取り調査を行った。これらの調査から小学校における校内研究の現状と課題を明らかにするとともに、若手研究主任が力を発揮し活躍するため支援体制の在り方について探った。市立小学校の校内研究の現状として、各学校とも熱心に研究に取り組み一定の成果を感じつつも、研究内容の日常化や子どもの変容に関わる場所については十分に手ごたえをつかんでいない様子が明らかになった。そこで、校内授業研究会の一層の活性化を図るために①参加者の会話量を増やす工夫、②お互いの考えを可視化する、③子どもの姿をもとに授業を語る、④次へつながるキーワードづくりの4つの提言を行った。

<スタッフ> カリキュラムセンター指導主事

#### 教育の情報化推進計画並びに教育の情報セキュリティポリシーの策定

(情報・視聴覚センター指導主事研究)

教育の情報化が進む中、ICT機器の整備、活用方法、教員研修等を検討していく上で、現行の教育の情報化5カ年計画を引き継ぐための新たな計画の策定が必要となっている。そこで、ICT利活用による児童生徒の情報活用能力の育成、教員の指導力の向上、子どもと向きあう時間の確保を目的とした「教育

の情報化推進計画」を策定する。また、急激な情報化の進展に伴い、児童生徒、教職員の情報モラルや情報リテラシーの向上が急務となっている。そのため、「情報セキュリティポリシー」（規程・基準）を策定し、今後の情報化に対応していくこととする。

<スタッフ> 樋口 彰（指導主事） 坂牧 秀則（指導主事） 熊谷 顯太郎（指導主事）  
栃木 達也（指導主事）

適応指導教室と学校の効果的な連携による  
学校復帰に向けた継続的な支援・指導の在り方に関する調査研究

（教育相談センター指導主事研究）

不登校対策として様々な取組を行っている中に適応指導教室がある。市内5か所で運営しており、その登録数は今年度150名を超えている。適応指導教室では、教育相談や学習活動、体験活動等の多様な活動を通して、子ども達の心のエネルギーを高めることに力点を置き、学校復帰をめざしている。毎年、多くの子どもが学校への完全復帰または、週に数回程度の登校ができるようになってきている。適応指導教室へ通所している児童生徒たちが学校復帰するためには、どのような支援が効果的であるのか。これまで行ってきた取組を再確認するとともに、新たな対応の視点も加えながらこれからも相談活動を継続し展開していく。また、学校復帰にあたって、学校や関係機関との有効な連携・支援の在り方についても一層の充実が求められている。

<スタッフ> 松崎 哲範（指導主事） 新井 紀代美（指導主事） 鈴木 廣和（指導主事）

通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒に対しての、特別支援教育体制の整備

（特別支援教育センター指導主事研究）

支援を必要とする児童生徒を把握し、その支援方法などを検討する機能として「校内委員会」が全校で開催されているが、「通常の学級」に在籍する者の内、小学校6,23%中学校3,00%のケース検討が行われ、高校でも50ケースの検討がされている。小学校においては「すべての教室に支援を必要とする子がいる」ことを前提として「指導体制や指導方法」の整備の段階に至っている。中・高校では発達特性の理解と進路を念頭に置いた校内体制づくりを推進する段階にある。コーディネーターの位置付け、心理専門員などの専門家の派遣システムを再構築し、体制の充実を進める必要がある。

<スタッフ> 稲葉 武（指導主事） 宮川 淳子（指導主事） 伊藤 琢也（指導主事）  
高木 幸江（指導主事） 片山 純子（指導主事） 吉田 宴（指導主事）

## 2 研究報告

### (1) 川崎市総合教育センター研究報告会【別紙1】

平成23年度センター研究報告会は、平成24年2月22日（水）に当センターで開催した。この研究報告会は、当センターの実践研究及び調査・基礎研究を報告し、研究協議、指導講評を通して研究の成果を市内の学校、社会教育機関に還元するものである。21年度より、学校からより参加しやすい研究報告会にするため15時からの開催としており、長期研究員、指導主事、指導主事と研究員による研究の9分科会で研究報告を行った。申込者、来賓合わせて656名の方々に参加をいただき、各分科会で活気あふれる研究報告会となった。また、指導助言者からは、それぞれの立場や専門的な視点からの指導助言をいただいた。

### (2) その他の研究発表【別紙2】

## 3 その他の研究事業

研究冊子等の発行

川崎市総合教育センター研究紀要 第25号（平成23年度版）

平成23年度に調査研究した内容の掲載

## 研究報告会報告内容

### <今日の教育課題の中で研究を深めたい方へ>

分科会 研究名	研究主題	発表者	講師	対象者
第1分科会 言語活動の充実 研究会議	思考力・判断力・表現力を育む学習活動 の工夫	桜本中学校 岡本 由希子	横浜国立大学 非常勤講師 白井 達夫	授業の中で言語活 動を充実させたい と考えている方
第2分科会 算数・数学 研究会議	確かな知識を身に付けるための指導に関 する研究	はるひ野 小中学校 堀江 賢司	玉川大学 教職センター教授 下田 照雄	知識が理解を伴っ たものになる指導 を考えたい方
第3分科会 総合的な学習 研究会議	総合的な学習を充実させる探究的な 学習	西御幸小学校 梶 康子	早稲田大学教育・総 合科学学術院教授 小林 宏己	総合的な学習の時 間を充実させたい と考えている方
第4分科会 高校教育 研究会議	学ぶ意欲の向上を目指した授業づくり	川崎高校 松本 智春	国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長 工藤 文三	教科・科目の授業でキャリ ア教育に取り組んでみよう と思っている方
第5分科会 ICT教育 研究会議	確かな学力を育む授業づくりをめざ して	土橋小学校 椎名 美由紀	横浜国立大学 准教授 野中 陽一	ICTを授業で積極的 に活用したいと考 えている方

### <校内授業研究をさらに活性化させたい方へ>

研究名	研究主題	発表者	
かきゅうセンター 指導主事	授業力向上を図るための校内授業研究会の在り方	指導主事 南谷 隆行	校内授業研究会につい ての意見交流

### <特別支援教育のこれからを考えたい方へ>

### <小学校と中学校の先生同士で国語について語り合い方へ>

### <子どもに健康な生活への意識をさらに高めさせたいと考えている方へ>

研究会議	研究主題	発表者	
特別支援	通常の学級における特別支援教育 ～地域支援チームと連携した有効な学校支援の方策～	指導主事と研 究員	講師 群馬大学准教授 霜田 浩信
国語教育	小学校・中学校のつながりを考えた伝統的な言語文化に 関する指導	指導主事と研 究員	小グループでの ディスカッション
健康教育	健康と生活の関連性を意識し、生活をととのえる力を育 む健康教育の展開と工夫	指導主事と研 究員	講師 聖心女子大学教授 植田 誠治

教育研究所連盟における研究発表

期 日	大会名 会 場	研究主題	発表者
10月7日	神奈川県教育研究 所連盟教育研究発 表大会  神奈川県総合教育 センター	確かな知識を身に付けるための指導に関する研究	堀江 賢司 (長期研究員)
		探究的な学習が充実する総合的な学習の時間 ～整理・分析の過程を適切に位置づけた 学習活動を通して～	梶 康子 (長期研究員)
		思考力・判断力・表現力を育む学習活動の工夫 ～学び合う中で言語活動を生かした授業づくり～	岡本 由希子 (長期研究員)
		確かな学力を育む授業づくりをめざして ～プラス ICT で～	椎名 美由紀 (長期研究員)
		キャリア教育の視点を活かした 教科・科目授業の実践と評価	松本 智春 (長期研究員)

## 2 教育関係教職員研修

### 1 ICT活用

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
101	ICT活用初級(ワード2007)	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準A(教材準備)基準E(校務活用) ワード2007を利用して文書作成の基本を学ぶ。書式の設定、文章の入力、編集、画像の挿入などの機能を活かし、教材作成や校務処理に役立てる。</p> <p>(1)ICT活用 初級(ワード2007)の活用・インストラクター(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	8/1	18
102	ICT活用中級(ワード2007)	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準A(教材準備)基準E(校務活用) ワード2007を利用して文書作成を学ぶ。ワードアートやオートシェイプなどの機能を活用して、教材作成や校務処理に役立てる。</p> <p>(1)ICT活用 中級(ワード2007)の活用・インストラクター(総合教育センター) (2)ICT活用 中級(ワード2007)活用・インストラクター(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	8/2	74
103	ICT活用中級(エクセル2007)	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準A(教材準備)基準E(校務活用) エクセル2007を利用して表計算を学ぶ。成績処理、グラフ作成、週案作成、データベース機能など様々な活用例で校務処理に役立てる。(中級)</p> <p>(1)関数を利用した成績処理・インストラクター(情報・視聴覚センター) (2)成績処理、エクセルを利用した文書作成・インストラクター(総合教育センター) (3)保護を利用した週案作成、グラフ・インストラクター(総合教育センター) (4)VLOOKUP関数の利用、データベース・インストラクター(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	8/4 8/5	188
104	ICT活用初級(パワーポイント2007)	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準A(教材準備)基準C(児童生徒の活用) パワーポイント2007を利用して教材作成やプレゼンテーションする際の基本を実習を通して研修する。</p> <p>(1)パワーポイントの操作方法(1)・インストラクター(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	8/1	37
105	ICT活用中級(パワーポイント2007)	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準A(教材準備)基準C(児童生徒の活用) パワーポイント2007を利用して、わかる授業や確かな学力の育成のために操作方法と効果的な提示方法を研修する。</p> <p>(1)パワーポイントの操作方法(1)・インストラクター(総合教育センター) (2)パワーポイントの操作方法(2)・インストラクター(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	8/3	75
106	デジタル画像入門	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力の基準A(教材研究) ビデオカメラで撮影した映像をコンピュータの動画編集ソフトを使って編集し、授業の中で活用できるようにするための研修を行う。</p> <p>(1)講話 心に問いかける映像メッセージ(講演)・原勤(日本アマチュア映像作家連盟) (2)実習 コンピュータでの動画編集・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	8/10	37
107	情報モラル教育	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準D(情報モラル) 新学習指導要領で求められている情報モラルを児童生徒に教えていく力を身につけ、ICT活用指導力の向上を図る。</p> <p>(1)すぐにできる情報モラル教育、授業実践・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	8/16	18
108	学校・研究会ホームページ作成	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準E(校務での活用) ホームページを作成するためにホームページビルダーを使って、基本的な作成方法や公開までの手順等を研修する。</p> <p>(1)学校・研究(部)会のホームページを作成・更新するときの留意点・指導主事他(総合教育センター) (2)学校・研究(部)会のホームページ作成と更新(1)・指導主事他(総合教育センター) (3)学校・研究(部)会のホームページ作成と更新(2)・指導主事他(総合教育センター) (4)学校・研究(部)会のホームページ作成と更新(3)・指導主事他(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	8/8 8/9	84
109	校務用コンピュータ活用	<p>■ 文部科学省 ICT活用指導力 基準E(校務での活用) 一人一台となった校務用コンピュータ、校務用イントラネット(サインズ)、エーロッキーの基本的な使い方(暗号化、金庫作成等)について研修する。</p> <p>(1)校務用イントラネット(サインズ)の使い方・指導主事(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	8/16	11
110	小学校情報教育研究会との共催	<p>■ 大型テレビとICT機器を活用した実践事例の紹介、実技研修、模擬授業等を通して研修を行う。</p> <p>(1)電子黒板、教材提示装置の機能についての事例紹介、操作研修。 (2)ICTを活用した指導案づくり、模擬授業の実施。意見交換を通してICT活用のポイントを全体で共有。指導主事(総合教育センター)・情報教育研究会常任委員</p>	全校種 教職員	7/29	70

2 授業力向上研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
201	国語科教育	<p>■ 国語教育の動向を踏まえながら、学習指導について、講義や研究報告、演習等を通して研修することにより、授業者としての資質の向上を図る。</p> <p>(1) 自ら本に手を伸ばす子どもを育てる読書活動・田中美智子(図書館司書)</p> <p>(2) 考える力を育てる新聞活用・鹿野川喜代美(NIE企画デザイナー)</p> <p>(3)(4) 国語科教育ワークショップと講義・片桐文雄(総合教育センター相談員) 中村きく子(古川小) 石橋友子(四谷小) 小林和馬(宿河原小) 草開朝央(宮崎小) 杉山美佳(東生田小) 西野裕子(菅小) 田中礼浩(塚越中)</p> <p>(5) 書写実技研修会(共催研修)・荒井利之(川崎高)</p>	全校種 教職員	8/2 8/19 8/22	357
202	社会科教育	<p>■ 新学習指導要領の理念を生かした社会科学習の在り方を、講義や実践提案、演習を通して研修し、授業者としての資質向上を図る。</p> <p>(1) 学習指導要領改訂に沿った公民的分野の授業改善(中学校向け)・和田俊雄(宮内中) 岡田真利子(塚越中)</p> <p>(2) 地域学習「かわさき入門」小林正史(真福寺小)・永井亮(栗木台小)・服部隆博(教育委員会文化財課)・望月一樹(市民ミュージアム学芸員)</p>	全校種 教職員	6/23 7/29	70
203	算数・数学科教育+(ICT授業活用)	<p>■ 児童生徒の学習意欲を高める授業のあり方についての研修を通して授業者としての資質の向上を図る</p> <p>(1) 子どもの意欲を高める算数の授業実践(小学校向け)・滝井章(国学院大学)</p> <p>(2) 算数・数学の授業改善～小学校の授業実践を通して～(共催研修)・前田高幸(枳形中)</p>	全校種 教職員	8/11	26
204	理科教育	<p>■ 新しい学習指導要領を踏まえ、講義や実験実習等を通して、授業力の向上を図る。</p> <p>(1) 理科臨地研修「天体観測」(共催研) 青少年科学館プラネタリウムを利用した天体観測を行います。・米倉竜司(川崎市青少年科学館)</p> <p>(2) 実験実習①「火の取扱い」アルコールやガスの取扱い及びガラス細工を行う。・網屋直昭(総合教育センター指導主事)</p> <p>(3) 授業研修「小・中合同理科研究授業」(共催研) 中学校の研究授業を通して学びの連続性について研修する。・森本信也(横浜国立大学)</p> <p>(4) 施設視察「エネルギー・環境教育」 パナソニックセンター東京において環境に配慮した先端時技術の研修を行う。(パナソニックセンター東京 リスーピア館長)</p> <p>(5) 野外観察「多摩川の生物観察」 地域教材としての多摩川について体験を通して研修をする。・(多摩川塾)</p> <p>(6) 実験実習②「薬品の取扱い」 塩酸や水酸化ナトリウムの調整と廃棄の実験を行う。・網屋直昭(総合教育センター指導主事)</p> <p>(7) 実験実習「期待検知管の取扱い」 気体検知管を用いて生物の環境について実験をする。・沢本大介(株式会社ガステック)</p> <p>(8) 実験実習④「電気の利用」 発電や蓄電などの実験を行い電気の利用について研修をする。・小学校教諭(小学校理科研究会)</p> <p>(9) 理科臨地研修「自然観察」(共催研) 生田緑地をフィールドとして植物や露頭の観察を行います。・小学校教諭(小学校理科研究会)</p>	全校種 教職員	6/1 7/1 7/6 7/21 7/27 8/18 8/19 8/22 10/19	319
205	生活科教育	<p>■ 動物飼育に携わる方々の話を聞いたり、多摩川の生息調査等を体験したりする中で生命に対する愛情を感じる心情の育成を図る。</p> <p>(1)(2) 多摩川体験実習-多摩川塾の講師を迎えて-(共催研修)・中本賢(多摩川クラブ)</p> <p>(3) 動物園体験実習(1日目)～動物の継続的な飼育方法について～・榎一成(夢見ヶ崎動物園)</p> <p>(4) 動物園体験実習(1日目)～実習①餌の調理、寝床の準備等～・榎一成(夢見ヶ崎動物園)</p> <p>(5) 動物園体験実習(2日目)～実習②餌の調理、寝床の準備等～・榎一成(夢見ヶ崎動物園)</p> <p>(6) 動物園体験実習(2日目)～野生動物の保護及び動物病院の実態、現状について～・榎一成(夢見ヶ崎動物園)</p>	全校種 教職員	7/27 8/8 8/9	60
206	音楽科教育	<p>■ 今求められている音楽科教育の充実に向け、授業の充実と改善の具体的な方策を実技、講義を通して研修し、授業力の向上をめざす。</p> <p>(1) 「音楽がわかる」ための鑑賞活動 講師：深澤啓太郎</p> <p>(2) 小学校音楽科共催研修 「合唱指導法」 講師：真鍋なな子</p> <p>(3) 小学校音楽科共催研修 「鑑賞指導法」 講師：深澤啓太郎</p> <p>(4) 中学校音楽科共催研修 「日本音楽・箏」 講師：佐々木壮明</p>	全校種 教職員	8/19 9/14 11/16 1/31	334
207	図画工作・美術科教育	<p>■ 図画工作・美術科教育における今日的な課題や問題点を広い視野から把握し、自己の授業改善への具体的な手だてを研修する。</p> <p>(1) 授業に生かせる実技研修会(粘土による心象表現制作) 三村修一(元市立小図画工作科研究会長)</p> <p>(2) 講演(中止) 「これから求められる図画工作・美術科教育—授業力向上—」 新井哲夫(明治学院大学教授)</p>	全校種 教職員	8/1	35
208	体育・保健体育科教育	<p>■ 学習指導要領全面実施に向けて講義から学び、資質の向上を図る。</p> <p>(1) 体育・保健体育(共催研修)・吉永 武史(早稲田大学)</p> <p>(2) 体育・保健体育(共催研修)・佐藤 豊(鹿屋体育大学)</p>	全校種 教職員	7/11 11/22	72

209	家庭・技術・家庭科(家庭分野)教育	<p>■ 題材開発や教材開発のために、安全面に配慮した実技研修を行い、学習指導上必要な教員の授業力向上を図る。</p> <p>(1)(2)小学校家庭科「生活に役立つ物の製作」(共催研修 小学校、特別支援学校向け)・安間正治(蛇の目ミン)</p> <p>(3)(4)中学校技術・家庭科(家庭分野)「調理の基礎」(共催研修 中学校、高等学校、特別支援学校向け)・齋藤利昭(東京誠心調理師専門学校)</p>	全校種 教職員	8/9	66
210	技術・家庭科(技術分野)教育	<p>■ 題材開発や教材開発を視点とした研修を行い、教員の授業力向上を図る。</p> <p>(1)技能・技術研修1(共催研修)・川崎総合科学高等学校コース別(総合電気・建設工学・デザイン)</p> <p>(2)技能・技術研修2(共催研修)・川崎総合科学高等学校コース別(情報工学・電子機械)</p> <p>(3)技能・技術研修3(共催研修)・石井秀明(橘中総括教諭)材料加工</p> <p>(4)技能・技術研修4(共催研修)・作佐部和彦(元部会長)生物育成</p>	全校種 教職員	8/18 8/19	31
211	英語科教育	<p>■ 新学習指導要領を踏まえた指導について、講師の豊富な経験をもとに理論と実践を学び、日々の指導の改善を図る。</p> <p>(1)小学校外国語活動を踏まえた、中学校入門期の英語指導について(フォニックスを応用して)考える。・野田まなみ(mpi)</p> <p>(2)新学習指導要領を授業者の中でどのように実践するか。生徒の表現意欲を引き出す指導の工夫・山田敦(中原中)、野平夕子(京町中)</p>	中学校 英語科 教職員	7/27	40
212	道徳教育	<p>■ 夢見ヶ崎動物公園での動物飼育の体験実習やスタッフの講演を通して、生命尊重の授業づくりを構想する。</p> <p>(1)動物園体験実習(1日目)～動物の飼育について～・夢見ヶ崎動物公園職員</p> <p>(2)動物園体験実習(1日目)～実習① 餌の調理、寝床の準備 他～・夢見ヶ崎動物公園職員</p> <p>(3)動物園体験実習(2日目)～実習② 餌の調理、寝床の清掃 他～・夢見ヶ崎動物公園職員</p> <p>(4)動物園体験実習(2日目)まとめ～野生動物の現状や動物病院の実態から生命尊重教育について考える～(総合教育センター指導主事)</p>	全校種 教職員	8/8 8/9	56
213	特別活動	<p>■ 特別活動における学級活動、児童会活動、生徒会活動、学校行事に生きる新聞づくりを、講義・実技を通して学ぶ。</p> <p>(1)「学級活動に生きる学級新聞づくり」「学級担任としての学級通信づくり」の基本的な考え方や作成方法などを知る。 小山淳一(宮内中学校長)</p> <p>(2)行事のまとめや様々な発表に生きる「壁新聞」の作り方を、実習を通して学ぶ。 市中学校教育研究会学校新聞部会</p>	全校種 教職員	8/9	27
214	総合的な学習の時間	<p>■ 福祉や環境の体験活動を探究的な学習活動に適切に位置付けて単元構想していく資質の向上をめざす。</p> <p>(1)(2)多摩川体験実習-多摩川塾の講師を迎えて-(共催研修)・中本賢(多摩川クラブ)</p> <p>(3)(4)福祉体験学習～社会福祉協議会の方々を迎えて～(共催研修)長沼豊(学習院大学)</p>	全校種 教職員	7/27 8/22	99
215	小学校外国語活動	<p>■ 学習指導要領の趣旨を理解しながら、外国語活動の実際の活動例や授業の組み立てなどについて研修する。</p> <p>(1)学習指導要領の趣旨を理解し、それにふさわしい活動の実践例や教室英語などについて学ぶⅠ・インストラクター(株式会社インタラック)</p> <p>(2)学習指導要領の趣旨を理解し、それにふさわしい活動の実践例や教室英語などについて学ぶⅡ・インストラクター(株式会社インタラック)</p>	小学校 教職員	8/22	14
216	授業力を考える	<p>■ 自分の授業の振り返り方、授業作りの視点等について研修し、授業力の向上を目指す。</p> <p>(1)日頃の授業の振り返り・網屋直昭(総合教育センター指導主事)</p> <p>(2)授業作りの視点・榎原真也(総合教育センター指導主事) 学習評価と学び合い・南谷隆行(総合教育センター指導主事)</p>	全校種 教職員	8/22	17
217	研究の進め方	<p>■ 校内研究や研究推進校等での授業研究の進め方や研究のまとめ方について研修し、学校での研究を推進していくための資質の向上をめざす。</p> <p>(1)研究の進め方・太田景子(菅中)、研究の骨格の作り方とまとめ方・榎原真也(総合教育センター指導主事)、授業研究の進め方・南谷隆行(総合教育センター指導主事)</p>	全校種 教職員	5/27	11

### 3 子ども理解研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延 人数
301	子どもの心をひらく児童生徒指導	<p>■ 人権尊重を意識した教育活動を行うために、信頼関係を築くエクササイズを実技演習を通して学ぶ。</p> <p>(1)信頼関係を育てるエクササイズ「心をひらく川崎の表現活動」・児童文化研究会</p> <p>(2)信頼関係を育てる参加・体験型プロジェクトアドベンチャー・白山明秀(玉川大学)</p>	全校種 教職員	8/11	26
302	国際理解教育	<p>■ 学級に日本語指導が必要な子どもたちが編入したとき、学級担任としてどのような支援を心がけていけばよいのか。子どもたちの日本語習得のプロセス、保護者との関係づくり、日本語指導等協力者との連携など具体的な場面について学ぶ。</p>	全校種 教職員	7/29	8

303	食育	<p>■ 食育に関する講話や調理体験を通して、食育に対する意識を高め、資質の向上を図る。</p> <p>(1) 食育講話・東京ガスインストラクター(東京ガス株式会社)</p> <p>(2) 調理実習・東京ガスインストラクター(東京ガス株式会社)</p>	全校種 教職員	8/12	26
304	消費者教育	<p>■ 消費者教育の課題と現状を知り、学校における消費者教育の普及と充実を図る。</p> <p>(1) 消費者教育の実践事例・佐竹愛子(消費者行政センター)</p>	全校種 教職員	7/27	6
305	自分を大切に作る健康教育	<p>■ 子どもの健康課題である食生活や睡眠、喫煙、薬物乱用、性に関する問題等の実態を把握し、子どもの発達課題に応じた健康教育の在り方や進め方について講義や演習を通して学び健康課題解決に生かす。</p> <p>(1) 性に関する教育をすすめるために・戸田芳雄(東京女子体育大学)</p> <p>(2) 理想の健康な学校づくりについて語ろう!・島内憲夫(順天堂大学スポーツ健康科学部)</p> <p>(3) 薬物乱用防止教育の進め方・野津有司(筑波大学院人間総合科学研究科)</p>	全校種 教職員	8/12 8/15	51
306	教育相談Ⅰ「事例研究」	<p>■ 教育相談の基本的な考え方を学ぶと共に、事例や実践資料を通して適切な子ども理解や支援の在り方を学ぶ。</p> <p>(1) 事例研究(1)・芳川玲子(東海大学)</p> <p>(2) 事例研究(2)・芳川玲子(東海大学)</p> <p>(3) 事例研究(3)・鶴養啓子(昭和女子大学)</p> <p>(4) 事例研究(4)・鶴養啓子(昭和女子大学)</p>	全校種 教職員	8/12 8/23	54
307	教育相談Ⅱ「自己表現で心を育てるプログラム」	<p>■ 自己の感情や行動を抑制する自我能力を育成し、自己の感情コントロールを育てるプログラムの理論と実践を学ぶ。</p> <p>(1) プログラムの理論と実践(1)・下山晴彦(東京大学)</p> <p>(2) プログラムの理論と実践(2)・下山晴彦(東京大学)</p>	全校種 教職員	8/18	38
308	教育相談Ⅲ「Q.U」	<p>■ 学級集団の意識や満足度を把握することができる。Q-Uを活かした学級作りの基本的な考え方とその活かし方を学ぶ。</p> <p>(1) 【基礎編】 Q-Uの理解と活用・浅川さなえ(壬生第1小)</p> <p>(2) 【実践編】 K-13法を使った事例研究法・浅川さなえ(壬生第1小)</p>	全校種 教職員	8/19	28
309	教育相談Ⅳ「グループワーク」	<p>■ 開発的・予防的教育相談の視点から、子どもたちの関係性を育てるプログラムを学ぶ。</p> <p>(1) 【小学校編】 グループワーク・中島智美(三田小) 星野登美代(南生田中) 新井紀代美(川崎市総合教育センター) 松井恭子 吉田豊美(玉川中) 阿部雅子(田島小)</p> <p>(2) 【中・高等学校編】 グループワーク・阿部雅子(田島小) 吉田豊美(玉川中) 松井恭子 新井紀代美(総合教育センター) 星野登美代(南生田中) 中島智美(三田小)</p>	全校種 教職員	8/22	23
310	教育相談Ⅴ「カウンセリング技法」	<p>■ 子どもや保護者との教育相談を進める際に活かせる技法や活用方法を実践的に学ぶ。</p> <p>(1) カウンセリング演習(1)・広井法子(横浜市教育総合相談センター)</p> <p>(2) カウンセリング演習(2)・広井法子(横浜市教育総合相談センター)</p> <p>(3) カウンセリング演習(3)・広井法子(横浜市教育総合相談センター)</p>	全校種 教職員	8/8 8/17	50

#### 4 職能別スキルアップ研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
401	養護教諭キャリアアップ	<p>■ 社会や環境の急激な変化により、子どもの健康課題は複雑になり多様化してきている。その解決のために養護教諭の果たす役割は益々重要となってきている。専門的な知識、技術を演習を通して学び資質の向上を図る。</p> <p>(1) 学校における事例検討会を組織的に取り組むために・小見祐子(柿の木坂相談所)</p> <p>(2) 養護教諭が行う健康相談の進め方・鈴木裕子(国士舘大学)</p> <p>(3) 平成22年度文部科学省健康教育指導者養成研修報告「子どものメンタルヘルスの対応と保健学習の実践に向けて」・田中理恵(渡田中) 佐藤香保里(中原小) (4) 平成22年度健康教育研究会議研究報告「自ら適切に判断できる力を育てる健康教育」・加藤木藤子(坂戸小) 吉原緑(下布田小) 猪狩和子(長沢中) 植田誠治(聖心女子大学)</p>	養護教諭	8/16 8/19	147
402	救急用酸素人工蘇生器取り扱い	<p>■ 各学校に配備されている救急用酸素人工蘇生器の取り扱いについて研修し、緊急時に適切な対応と救急用酸素人工蘇生器の使用ができる技術の向上を図る。</p> <p>(1) 救急用酸素人工蘇生器の取り扱いについて・恵秀彦(了徳寺大学健康科学科)</p>	養護教諭	8/12	10
403	学校事務職員	<p>■ 実技演習や実践交流を通じて、学校事務職員としての専門性を高め、資質の向上を図る。</p> <p>(1) 実務に役立つ演習1・インストラクター(株式会社インタラック)</p> <p>(2) 実務に役立つ演習2・インストラクター(株式会社インタラック)</p> <p>(3) 実務に役立つ演習3・インストラクター(株式会社インタラック)</p> <p>(4) 実務に役立つ演習4・インストラクター(株式会社インタラック)</p>	学校事務職員	7/25 8/22	15
404	栄養教諭・学校栄養職員	<p>■ 食に関する指導についての研修や教材開発等を行い、指導力の向上を図る。</p> <p>(1) 食に関する指導の題材や教材づくり・対馬芳恵(南百合丘小)</p> <p>(2) 食物アレルギーの実態や基礎知識・長谷川実穂(国立病院機構相模原病院)</p>	栄養教諭・学校栄養職員	7/29	39

405	学校給食調理員	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 講義や実技演習を通して、食と健康に関する幅広い知識や技能を身に付ける。</li> <li>(1) 調理に関する講義と実習、米粉の調理・菰田欣也(超人シェフ倶楽部)</li> <li>(2) 調理に関する講義と実習、米粉の調理・菰田欣也(超人シェフ倶楽部)</li> </ul>	学校給食調理員	8/11	48
406	学校用務員	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学校用務員のサービス及び技術・技能等の研修を行い、その資質の向上を図る。</li> <li>・アーク溶接の実技研修(川崎総合科学高にて実施)</li> </ul>	全校種教職員	8/23	13
407	高校教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ キャリア教育を授業に取り入れることで、生徒の自己理解を深める実践方法に迫る。</li> <li>(1) 教科における学びと社会のつながりを取り入れた授業を通して効果的にキャリア教育を進める指導方法の工夫について研修する。・牛木寿美(橘高)</li> <li>(2) OHBYカードを使用したキャリア教育の実践法についてワークショップにより研修する。・下村英雄(労働政策研究・研修機構)</li> </ul>	全校種教職員	8/18	24
408	特別支援教育マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学校や地域の中心となって特別支援教育を推進していく人材を養成する専門的な内容を企画している。校内委員会の企画運営をしたり学級支援に入ったりする場合や、コンサルテーションや様々な教育相談等に対応する力を高める。</li> <li>(1) (2) ユニバーサルデザインの考え方に基づく学級と授業づくり・比嘉展寿(筑波大学附属特別支援学校)</li> <li>(3) 校内委員会やケース会議を活性化させる</li> <li>(4) ケース会議の実際・原田浩司(栃木県鹿沼市立みなみ小)</li> <li>(5) (6) 発達障害のある子どもに対する虐待について事例から学ぶ・村松健司(首都大学東京)</li> </ul>	(原則として)特別支援教育コーディネーター養成研修修了者	8/5 8/10 8/11	113
409	特別支援教育コーディネーターステップアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特別支援教育のより充実した校内支援体制を構築するための実践的な知識と技術を身に付ける。</li> <li>(1) 発達障害のある子どもの理解に必要なアセスメントの基礎</li> <li>(2) WISCⅢの実際・恵良美津子(横須賀市療育相談センター)</li> <li>(3) 教育相談に関する知識を学ぶ</li> <li>(4) 保護者の心情に寄り添う教育相談の実技演習・菊池けい子(旭出学園教育研究所)</li> <li>(5) (6) 通常の学級で、学習に負担感のある子どもに対する手立て～読み書きを中心に～・佐々木徳子(帝京大学教職大学院)</li> </ul>	(原則として)特別支援教育コーディネーター養成研修修了者	8/4 8/23 12/27	138
410	通級指導教室専門	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 通級指導教室における専門性の向上を図るために、具体的な指導法を学ぶ。</li> <li>(1) (2) 読み書きに課題のある子どもへの具体的な支援の方法について・原恵子(上智大学大学院)</li> <li>(3) (4) 子どもの理解や支援に活かす応用行動分析学・三田地真美(星槎大学)</li> </ul>	通級指導教室担任等	8/8 8/9	80
411	就学前教育の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 幼児期からの教育における今日の課題をとらえ理解を深めるとともに、教職員の実践・指導力の向上を図る。(共催研修)</li> <li>(1) 幼小連携での子どもの育ち・和田信行(東京成徳短期大学幼児教育学科)</li> <li>(2) 幼小連携での子どもの育ち～「遊び」から「学び」へ～・福元真由美(東京学芸大学)</li> </ul>	全校種教職員	8/19	89

## 5 学校支援研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
501	情報教育校内研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各学校の要請・要望に応じて情報教育に関する研修を行う。</li> <li>校務用イントラネット(サインズ) 情報セキュリティ 50ｲﾝﾀﾞｼﾞﾌﾞﾙﾚﾍﾞﾙ等 ICT授業活用研修 情報モラル</li> </ul>	全校種教職員	5/9～14回	373
502	教育相談校内研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教育相談に関する事例研究、講演、体験学習などを学校の依頼、希望に応じて行う。</li> </ul>	全校種教職員	8/22・25・26・29 11/15	202
503	特別支援教育校内研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特別支援教育に関する校内研修を指導主事が学校を訪問して行う。コーディネーターと相談しながら、各学校のニーズにこたえる研修内容を設定する。「発達障害の理解と支援」「通常の学級の中の困り感を抱える児童生徒の理解や対応」など、特別支援教育に関する基本的な理解を深める内容や「どの子にもわかりやすい授業をめざして」「ユニバーサルデザインの授業づくり」など、集団づくりや授業づくりについての内容依頼が多い。</li> </ul>	全校種教職員	4/15～17回	436

## 6 教養研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
601	公開教養講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各分野で活躍している方の講話を聴き、幅広い考えや豊かな人間性を培う。</li> <li>(1) 偉大なるご近所、多摩川はオモシロイ!・中本賢(俳優)</li> </ul>	全校種教職員・社会教育員・市民	11/6	141

7 夜間利用・土曜研修 リクエスト研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
701	夜間利用「ワード2007」	■ ワード2007を利用して基本的な文書作成の方法を研修する。(初級) (1)ワード2007の基礎・指導主事(総合教育センター)	全校種 教職員	5/18 10/13	2
702	夜間利用「エクセル2007」	■ 成績処理の表計算やグラフ作成など基本操作を研修する。(初級) (1)エクセル2007の基礎・指導主事他(総合教育センター)	全校種 教職員	10/12	3
703	夜間利用「パワーポイント2007」	■ パワーポイント2007を使って文書やイラストの取り込み、アニメーション機能について基本的な研修を行う。(初級) (1)パワーポイント2007の基礎・指導主事他(総合教育センター)	全校種 教職員	5/20	1
704	夜間利用「学校・研究会ホームページ」	■ ホームページを作成するためにホームページビルダーを使って、基本的な操作方法や公開までの手順等を研修する。 (1)ホームページ作成の基礎・指導主事他(総合教育センター)	全校種 教職員	11/10	4
705	夜間利用「情報モラルと情報の取り扱い」	■ 個人情報、著作権、情報モラルについての事例を基にしながら研修する。(初級) (1)事例を基にしながら個人情報、著作権、情報モラルについて研修する。・指導主事他(総合教育センター)	全校種 教職員	11/15	8
706	夜間利用「ICT授業活用」	■ 電子黒板の持つ「画面上で操作する」「画面上に書き込む」「画面を保存する」という基本的な機能を活かした授業活用について研修する。 (1)電子黒板の授業活用・指導主事(総合教育センター)	全校種 教職員	6/23 7/7	2
707	夜間利用「校務用コンピュータ活用」	■ 校務用コンピュータのエーロッキーの使い方や運用の仕方を研修する。(初級) (1)校務用イントラネット(サインズ)の使い方・指導主事他(総合教育センター)	全校種 教職員	8/30 8/31	25
708	夜間利用「デジタル画像編集」	■ コンピュータでの基本的なビデオ編集について研修する。(初級) (1)デジタル動画編集・指導主事(総合教育センター)	全校種 教職員	11/22	0
709	夜間利用「管理職のための学校ホームページ更新」	■ 学校(研究会)ホームページを管理職として維持管理するための研修を行う。 (1)学校(研究会)ホームページを管理職として維持管理するための研修・指導主事他(総合教育センター)	全校種 教職員	5/31	0
710	夜間利用「国語科教育」	■ 新しい学習指導要領の理念を踏まえた国語科の授業実践について、講義及び質疑を通して学ぶ。 (1)「国語科におけるこれからの学習評価と授業改善」・高木展郎(横浜国立大学)	全校種 教職員	8/31	60
711	夜間利用「算数・数学科における授業改善」	■ 算数・数学の授業作りのポイントを授業記録のビデオを基に研修し、授業力向上を図る。 (1)算数・数学の授業改善1～授業のどこを見るのか～・馬場英顯(臨床教育研究所わいわい) (2)算数・数学の授業改善2～学びあいのある授業とは～・馬場英顯(臨床教育研究所わいわい) (3)算数・数学の授業改善3～子ども同士が高めあう授業とは～・馬場英顯(臨床教育研究所わいわい) (4)算数・数学の授業改善4～子ども主体の授業とは～・馬場英顯(臨床教育研究所わいわい)	全校種 教職員	6/21 9/28 11/28 2/8	40
712	夜間利用「音楽科教育」	■ 今求められている音楽科教育の充実に向け、授業の充実と改善への具体的な方策を実技・講義を通して研修し、授業力の向上を図る。 (1)箏の基礎的奏法と箏を使った創作の工夫 講師：平櫻旦山 大和田歌翠 (2)リコーダーの基礎的奏法から楽しい合奏 講師：鈴木英之 (3)指揮法講習① 講師：田久保裕一 (4)指揮法講習② 講師：田久保裕一	全校種 教職員	9/2 9/9 9/16 9/30	125
713	夜間利用「不登校対策事例検討」	■ 不登校の具体的な事例の研究を通して、対応の在り方について実践的に研修する。 (1)事例検討(1)・小見祐子(柿の木坂相談所) (2)事例検討(2)・小見祐子(柿の木坂相談所) (3)事例検討(3)・小見祐子(柿の木坂相談所)	全校種 教職員	6/9 9/15 1/26	3
714	夜間利用「図工工作・美術科教育」	■ 図画工作・美術科教育の充実に向け授業改善と指導者の指導力の向上を図るための具体的な方法を実技・講義を通して研修する。 (1)教材研究と指導の工夫1「これから求められる図工・美術教育」・小池研二(横浜国立大学准教授) (2)版画制作(実技研修会)・石田彰一(元図工研副会長) (3)教材研究と指導の工夫3「これから求められる図工・美術教育」・佐々木孝(元横浜図工研究会会長) (4)教材研究と指導の工夫4「これから求められる図工・美術教育」・呉羽一彦(元美術科研究会会長)	全校種 教職員	7/8 9/30 11/18 1/20	43

715	夜間利用「総合的な学習の時間」	<p>■ 総合的な学習の時間における探究的な学習活動の展開の仕方を、具体的な事例の紹介を通して研修し、単元計画を作成するための資質の向上を図る。</p> <p>(1)各学校の創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開するために全体計画・年間指導計画を作成、見直しする。(2)(3)各学校の実践をもとに単元計画の見直しを図る。・指導主事(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	6/24 6/29 10/14	18
716	夜間利用「実践から学ぶ保健室経営ブラッシュアップ」	<p>■ 保健室経営の実践例を基にして各自の保健室経営を見直し、保健室の場と機能を活かした保健室経営をしていくための機会とする。また、実践例から具体的に活用できるものを作成する。</p> <p>(1)救急処置の充実を図る保健室経営を考える・岡村佳奈(苅宿小) (2)救急処置の充実を図る保健室経営を考える・市川豊代子(橋高)</p>	養護教 諭	10/7 11/22	25
717	土曜利用「事例検討から学ぼう」	<p>■ 健康相談に活かせるようスーパーバイザーの指導の下、抱えている課題を仲間と共有するとともに、課題解決に向けて事例検討会で資質の向上を図る。</p> <p>(1)事例検討から学ぼう・小見祐子(柿の木坂相談所) (2)事例検討から学ぼう・小見祐子(柿の木坂相談所)</p>	養護教 諭	9/24 1/28	3
718	その他の夜間利用研修・土曜研修	<p>■ その時々課題となるテーマについて、夜間・土曜日を利用して随時研修を行う。</p> <p>(1)必要に応じて随時設定・指導主事(総合教育センター)</p>			
719	リクエスト研修	<p>■ 学校から要請されたテーマに応じて、担当の指導主事が講師を務める。</p> <p>(1)要請に応じて随時設定・指導主事(総合教育センター)</p>			

## 8 必修研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延 人数
801	新規採用職員	<p>■ 川崎市の教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、現職研修の一環として、教職全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させる。</p> <p>(1)研修オリエンテーション・メンタルヘルス研修 (2)情報機器の活用法、情報モラル・総合教育センター指導主事 (3)学級経営及び児童生徒指導の基本について・東京聖栄大学教授 岡田弘 (4)救急法の講義演習、心肺蘇生法・日本赤十字社 (5)教科指導、授業の作りの基本についての講義演習 (6)特別新教育の現状と理解について・総合教育センター指導主事 (7)理科指導における安全指導[小]部活動指導中における事故発生時の対応[中]・センター指導主事 (8)～(11)初任者授業研究・総合教育センター指導主事等 (12)宿泊研修オリエンテーション (13)～(16)宿泊研修・自然体験学習、作業体験学習、テーマ別研修等・総合教育センター指導主事 (17)児童生徒指導、児童生徒とのかかわり・各区教育担当指導主事 (18)(19)道徳教育、特別活動の授業参観と研究協議・総合教育センター指導主事 (20)(21)児童生徒指導上の諸問題・各区教育担当指導主事 (22)各教科の示範授業参観と研究協議・総合教育センター指導主事 (23)人権に関する講義と市内の教育実践報告・総務部共生教育担当課長等 (24)学習指導に関するレポート協議 (25)研修のまとめ、講義・指導主事(総合教育センター)</p>	新規採 用教職 員	勤務校 外研修 年間25 回 4/4～ 2/2 宿泊研 修を含 む 8/1～ 8/4	5125
802	新規採用養護教員	<p>■ 養護教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、現職研修の一環として、学校保健全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させる。</p> <p>(1)養護教員に必要な資質と能力、教育に果たす養護教員の役割、学習指導要領と保健学習、保健指導・後藤美智子(総合教育センター指導主事) (2)小学校における保健室経営と健康教育の実際・宮澤陽子(西丸子小) (3)健康教育の授業研究に向けて指導案検討・後藤美智子(総合教育センター) (4)健康教育の実際、学校での授業研究・後藤美智子(総合教育センター指導主事) (5)中学校における保健室経営と健康教育の実際・對馬のり子(南生田中) (6)保健室経営案と学校保健計画の立案、養護教諭の活動と評価・後藤美智子(総合教育センター指導主事)</p>	新規養 護教諭	6/27 9/12 10/3 10/31 11/28 12/19	42
803	新規採用学校栄養職員	<p>■ 学校栄養職員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、現職研修の一環として、学校給食全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させる。</p> <p>(1)本市の学校給食の概要とサービス・小田貴子(教育委員会健康教育課) (2)給食業務の進め方Ⅰ・小田貴子(教育委員会健康教育課) (3)給食業務の進め方Ⅱ・小田貴子(教育委員会健康教育課) (4)食に関する指導Ⅰ・小田貴子(教育委員会健康教育課) (5)食に関する指導Ⅱ・小田貴子(教育委員会健康教育課) (6)食に関する指導Ⅲ・指導主事(総合教育センター)</p>	新規学 校栄養 職員	4/6 4/14 4/19 6/27 7/19 12/13	18

804	2年目教員	<p>■ 服務規律、道徳、特別活動、総合的な学習の時間及び外国語活動の講義や授業研究を通して学級経営の充実を目指すとともに、教科指導力の一層の向上を図る</p> <p>(1)開校式・服務規律・瀧寺繁夫(教育委員会教職員課) 中西憲子(総合教育センター指導主事) 南谷隆行(総合教育センター指導主事)</p> <p>(2)特別活動・道徳・総合的な学習の時間・外国語活動 講義・班別討議・川野佳秀(総合教育センター指導主事)水之江忠(総合教育センター指導主事)中西憲子(総合教育センター指導主事) 響田亜子(田島小)</p> <p>(3)特別活動・道徳・総合的な学習の時間・外国語活動 講義・班別討議・川野佳秀(総合教育センター指導主事)水之江忠(総合教育センター指導主事) 中西憲子(総合教育センター指導主事) 響田亜子(田島小)</p> <p>(4)班別授業研究(特別活動・道徳・総合的な学習の時間・外国語活動)・研究会会長</p> <p>(5)-1教科別、班別授業研究(教科 中・高・特・養護)・研究会会長</p> <p>(5)-2班別授業研究(小学校教科)・研究会会長</p>	2年目教員(全校種)	5/10 8/10 11/1 1/17, 23	1627
805	5年経験者	<p>■ 教員経験を振り返り、直面している教育諸課題について研修し、教員としての力量を高め、各学校の中核としての役割を果たすための資質を磨く。</p> <p>(1)教職員服務規定 班別研修会・佐藤栄寿(教育委員会教職員課)</p> <p>(2)人権研修 講演会・会沢芳一(株式会社横浜市食肉公社)</p> <p>(3)班別レポート研修・指導主事等(総合教育センター)</p>	5年経験(全校種)教職員	6/29 7/29 12/16	571
806	10年経験者	<p>■ 川崎市の教員としての使命感を養うとともに、個々の豊かな実践力の向上を図る</p> <p>(1)開講式・教職員服務規律研修・研修ガイダンス・グループ研修</p> <p>(2)実践力を高める研修① 講師：横浜国立大学 白井達夫</p> <p>(3)異校種交流研修ガイダンス・課題別研修①：指導主事(総合教育センター)</p> <p>(4)児童生徒指導研修① 講師：指導主事(区教育担当)</p> <p>(5)児童生徒指導研修② 講師：指導主事(区教育担当)</p> <p>(6)・人権尊重教育研修 講師：鈴木信一郎(教育委員会人権共生担当) ・情報モラルと危機管理に関する研修 講師：指導主事(総合教育センター)</p> <p>(7)川崎の理解についての研修</p> <p>(8)教育課題研修①、②コース制(午前、午後で1コース選択) 特別支援・教育相談・帰国外国・学級経営・教育法規・共生共育・学校行事・健康安全</p> <p>(10)教科教育等研修①</p> <p>(11)実践力を高める研修② 講師：馬場英顕(臨床教育研究所わいわい所長)</p> <p>(12)(13)異校種交流研修(各学校)</p> <p>(13)教科教育等研修③：指導主事(総合教育センター)</p> <p>(14)教科教育等研修②</p> <p>(15)課題別研修②・閉講式：指導主事(総合教育センター)</p>	10年経験(全校種)	5/9 6/7 6/24 8/2 8/3 8/4 8/5 11/7 1/4	2,775
807	15年経験者	<p>■ 中堅教員としての企画力、運営力の向上を図り、校内におけるリーダー性を育成する。また、メンタルヘルスや人権尊重についても研修を行う。</p> <p>(1)開講式、「メンタルヘルス」・市職員(教育委員会勤労課)</p> <p>(2)「人権尊重教育研修」・江間薫(宮前平小) 田中真喜男(藤崎小)</p> <p>(3)服務規律研修・市職員(教育委員会教職員課) 「カリキュラムマネジメント」・指導主事(総合教育センター)</p> <p>(4)「教育研究の進め方」・小林宏己(早稲田大学) 閉講式・指導主事(総合教育センター)</p>	全校種教職員	7/27 7/29	266
808	20年経験者	<p>■ 学校教育目標の実現のために、学校全体を視野に入れて、教育活動を企画・運営するための資質・能力の向上を図る。</p> <p>(1)演習「特別支援教育」・吉田宴(総合教育センター指導主事)</p> <p>(2)演習「みんなで文殊になる授業をつくる」・馬場英顕(臨床教育研究所わいわい所長)</p> <p>(3)演習「服務規律」・永野直樹(教育委員会教職員課)</p> <p>演習「私の一実践～20年を振り返って～」</p> <p>(4)講演「実践ストレスマネジメント」・松本清子(駒澤大学)</p> <p>講話「20年経験者への期待」・竹田文夫(総合教育センター)</p>	全校種教職員	8/9 8/10	576
809	新任教務主任	<p>■ 学校教育全般を企画・運営・評価する教務主任の資質・能力の育成のために、講義・演習等により校務遂行に資する研修を行う。</p> <p>(1)講話「新任教務主任への期待」・渡邊茂(東住吉小)</p> <p>演習「公簿類の取扱」・南谷隆行(総合教育センター指導主事)</p> <p>演習「学校情報セキュリティー」・熊谷顯太郎(総合教育センター指導主事)</p> <p>(2)講話「教務主任の実務」・島田道雄(川崎小) 山口嘉徳(荻宿小) 松岡広記(橘小学) 石井久美子(南野川小) 田村光司(稲田小) 安藤博(西生田小) 勝城俊幸(臨港中) 土橋元明(井田中) 豊泉とも子(高津中) 戸塚千年(高津高)</p> <p>講話「教育法規の運用と解釈」・井上総一郎(教育委員会教職員課)</p> <p>(3)講義「授業力を高める学校づくり」・白井達夫(横浜国立大学)</p> <p>(4)グループ演習「授業について語る学校づくり」</p> <p>(5)講義「校内研究と学校づくり」・前田博明(幸区子ども支援室)</p>	新任教務主任	5/6 5/30 7/21 7/28	117
810	新任総括教諭	<p>■ 学校経営補佐等、総括教諭の職務遂行に必要な資質・力量の向上を図る</p> <p>(1)総括教諭に期待すること・赤松理(教育委員会教職員課) 大平真史(長沢小) 土澤稔(西中原中)</p> <p>(2)企業派遣研修報告、総括教諭として実践したこと・指導主事(総合教育センター)</p>	新任総括教諭	4/28 12/26	166

811	教頭研修	<p>■ 教頭の職務遂行と学校運営にかかわる諸議題について具体的な事例をもとに研修し、管理職としての資質向上を図る。</p> <p>(1)講演「学校組織マネジメントと教頭の役割」・北神正行(国士館大学)</p> <p>(2)分散会ー1「法規演習」・市職員(教育委員会教職員課)</p> <p>(3)講演「管理職に求められる持続可能な開発のための教育」・渡辺一雄(元文部科学省国際課長)</p> <p>(4)分散会ー2「課題研修」・市立学校長(市立学校)</p> <p>(5)講話「川崎市の人権尊重教育について」・市職員(教育委員会人権・共生教育担当)</p> <p>(6)講演「教育と福祉の連携」・藤吉賢二(特定非営利活動法人アシスト理事)</p>	教頭 副校長	6/13 7/25 9/9 12/13 1/13	836
812	新任教頭	<p>■ 新任教頭としての心得や必要となる実務について研修を行う。</p> <p>(1)実務研修「非常勤講師、臨任の任用」「計画配置パソコン研修」・市職員(教育委員会庶務課、教職員課)</p> <p>(2)講演「教頭的心得」実務研修「休暇制度等の概要」「勤務時間の割り振り」・村上寛(元小学校長会長)市職員(教育委員会勤労課、教職員課)</p> <p>(3)実務研修「安全衛生、公務災害、健康管理」「夢21事業、特別非常勤講師」・市職員(教育委員会勤労課、指導課)</p> <p>(4)実務研修「教育予算」[財務事務]・市職員(教育委員会学事課、庶務課)</p> <p>(5)リーダー研修「情報モラル、情報セキュリティ」・市職員(総合教育センター)</p> <p>(6)リーダー研修「学校の新しい流れ～教視力の連鎖～」・杉尾光明(独立行政法人教員研修センター)</p> <p>(7)リーダー研修「分散会による班別討議」・市立学校長(市立学校)</p>	全校種 教頭	4/18 4/26 5/2 5/12 5/31 6/27 7/29	189
813	学校経営教頭	<p>■ 広い視野から学校のあり方等について研修し、時代に即した学校経営の方策を探る。</p> <p>(1)効果的なコミュニケーション・坂巻美和子(社員研修研究室)</p> <p>(2)会議運営について</p>	昇任2年 目教頭	8/22	106
814	校長研修	<p>■ 校長の職務遂行と学校運営にかかわる諸課題についての最新の理論や実践等を学び、校長としての資質の向上を図る。</p> <p>(1)新しい学習指導要領における言語活動の充実・富山哲也</p> <p>(2)新しい学習指導要領における総合的な学習の時間のあり方・田村学</p> <p>(3)人間の幸せとは、社会のあり方とは・大山泰弘</p> <p>(4)いじめ・不登校を生まない学校づくりのために・小林正幸</p>	全校種 校長	5/27 9/2 12/5 1/30	634
815	新任校長	<p>■ 新任校長の学校全体の運営、管理や指導を伴う経営力に関する研修を行う。</p> <p>(1)講話「学校経営と校長の役割」・渡邊直樹(元市立中学校長) 「メンタルヘルス」「4手当の認定」市職員(教育委員会勤労課)</p> <p>(2)実務研修「教職員の人事」他・市職員(教育委員会教職員課)</p> <p>(3)講話「人権オンブズパーソン」・人権オンブズパーソン 講話「学校事故対応と事故処理」・市職員(教育委員会庶務課)</p> <p>(4)班別討議:学校運営の現状と課題・市職員(教育委員会学校教育部)</p> <p>(5)講演「学校におけるコーチング」・大石稜子(コーチングSERERE代表)</p>	新任校 長	4/8 5/2 7/27 7/28	115
816	学校経営校長	<p>■ 広い視野から学校の在り方について研修し、時代に即した学校経営の方策を探る</p> <p>(1)夢や希望を語る校長であれ・前田博明(元市立中学校長)</p> <p>(2)(3)校長力を高める心得と実践・寺崎千秋(教育調査研究所研究部長)</p> <p>(4)授業改善を軸にした学校経営・高木展郎(横浜国立大宅教育人間科学部教授)</p>	昇任2年 目校長	7/4 7/21 10/24	140
817	小学校外国語中核教員	<p>■ 学習指導要領における小学校外国語活動の目的や内容等を理解するとともに、授業力及び英語での指導力を高め、外国語活動推進のリーダーとして各校内の中心的役割を果たす教員を育成する。</p> <p>(1)オリエンテーション、外国語活動の目標・基本理念の理解・各校実践・センター指導主事(総合教育センター)</p> <p>(2)外国語活動の評価と指導について・指導主事(総合教育センター) 指導法ワークショップ① 他・インストラクター(株式会社インタラック)</p> <p>(3)指導法ワークショップ② 他・インストラクター(株式会社インタラック)</p> <p>(4)指導法ワークショップ③ 他・インストラクター(株式会社インタラック)</p> <p>(5)授業演習・研修報告会・指導主事(総合教育センター)</p> <p>(6)研修のまとめ・東 仁美(聖学院大学)</p>	小学校 外国語 活動中 核教員	4/20 8/8 8/8 8/9 1/6 1/6	654
818	小・中学校合同道徳教育	<p>■ 講演会、授業公開を実施し、道徳教育や道徳の時間に対する理解を深め、小・中学校の連携を深める。</p> <p>(1)第1回 講演会・永山友美子(音楽家)</p> <p>(2)第2回 宮崎中</p> <p>(3)第3回 荻宿小</p>	小・中 学校教 員	7/27 11/16 12/7	688
819	キャリア教育・進路指導	<p>■ 児童・生徒一人一人が将来の生き方について主体的に考え、選択できる能力や態度をはぐくめるキャリア教育・進路指導の推進を目指し、その担当者としての資質向上を図る。</p> <p>(1)「生きる力を育てよう」をテーマにキャリア教育の理解を深め、教員の指導力の向上を図る。・講師:喜多川泰(有限会社聡明代表)</p> <p>(2)各学校におけるキャリア教育・進路指導の推進を図る。・田島小、高津中(平成22、23年度川崎市キャリア教育推進校報告)、高校(長期研究員より)の各実践報告</p>	小・中・ 高校教 職員	9/28 2/27	226

820	人権尊重教育推進担当者	<p>■ 人権尊重教育の動向を理解し、各校の取組から人権尊重教育の推進の研修を行う</p> <p>(1) 全体会「講話」・人権・共生教育担当 分散会「各学校人権尊重教育の重点と推進計画情報交換」</p> <p>(2) 全体会「講話」・市職員（教育委員会人権・共生教育担当） ・指導主事（総合教育センター） 分散会「参加型権利学習の実践」</p> <p>(3) 人権尊重教育推進推進校 今井中または下小田中小 授業報告会 参加</p> <p>(4) 全体会「講話」・市職員（教育委員会人権・共生教育担当） 分散会「各学校人権尊重教育の重点と推進報告情報交換」</p>	全校種 教職員	5/24 7/8 12/7 12/14 2/16	684
821	養護教員	<p>■ 養護教諭が専門職として自らの技術の向上に努め、適切な対応を行える力量を高める。</p> <p>(1) 心肺蘇生法・菅野絹江（日本赤十字社神奈川県支部）</p> <p>(2) 心肺蘇生法・菅野絹江（日本赤十字社神奈川県支部）</p> <p>(3) 養護教諭が行う救急処置・中澤暁（医師）</p>	養護教 諭	6/1 6/22 11/30	365
822	学校プール安全衛生・蘇生法	<p>■ 学校プールにおける水泳指導前に、安全衛生に関する知識についての研修を深め、水泳指導計画に活かす。また、日常の学校事故の緊急時に適切な処置を行うことができるよう、心肺蘇生法の実技研修を通して技術の向上を図る。</p> <p>(1) 学校プール安全管理上の留意事項と水質管理・指導主事（総合教育センター） 柳内一（学校薬剤師会）</p> <p>(2) 心肺蘇生法・菅野絹江（日本赤十字社神奈川県支部）</p>	全校種 教職員	4/25 5/24	297
823	小学校夏季体育実技講習会	<p>■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る</p> <p>(1) ゴール型（サッカー）、保健、表現リズム遊び、器械運動（跳び箱） ・市立学校教諭</p> <p>(2) 体力を高める運動、水泳、器械運動（鉄棒）、走跳の運動（かけっこ、リレー） ・市立学校教諭</p> <p>(3) 器械・器具を使った運動遊び（マット）、ゴール型、陸上競技（走り高跳び）、 研修討議 ・市立学校教諭</p>	小学校 教諭・新 規採用 5年未 満教諭	7/27 7/28 7/29	1600
824	中学校夏季体育実技研修会	<p>■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る</p> <p>(1) サッカー、ダンス、剣道、バレーボール ・市立学校教諭</p> <p>(2) 柔道、バスケット、体づくり運動、陸上競技 ・市立学校教諭</p>	中学校 保健体 育科教 諭	8/18 8/19	776
825	小学校新規採用教員水泳実技講習会	<p>■ 小学校教員の泳力向上と技術の習得及び指導力の向上を図る</p> <p>(1) 講義：学習内容と指導計画について 実技：リズム水泳、低学年の指導法、中学年の指導法 ・市立学校教諭</p> <p>(2) 講義：安全指導とプール管理体制について 実技：ウォームアップ-アクアビクス-、高学年の指導法、泳法・泳力向上タイム 10分間泳・クールダウン ・市立学校教諭</p>	小学校 新規採 用5年 未満教 諭	7/25 7/26	776
826	小学校音楽科実技研修	<p>■ 小学校教員の歌唱、器楽の基礎的な技能の向上と音楽科指導における指導力の向上を図る。</p> <p>(1) 歌唱実技及び指導法・元小学校音楽研究会 家藤麻佐</p> <p>(2) 器楽実技及び指導法・リコーダー指導者 山田洋一 ・鍵盤ハーモニカ指導者 高階恵 ・打楽器指導者 大嶽實穂</p>	小学校 新規採 用5年未 満教諭	8/22	125
827	教育相談宿泊研修	<p>■ 教育相談の考え方や技法を習得することに加え、人と接する中で生じる自分の心の動きや他者とのかかわりの在り方を見つめることをねらいとした体験的な研修を行い、自己啓発を図る。</p> <p>(1) 開講式</p> <p>(2) 班別研修（セッション1～4）</p> <p>(3) 閉講式</p>	全校種 教職員	8/9 8/10 8/11	183
828	特別支援学級等新担任者	<p>■ 文部科学省で定められた必修研修で、特別支援教育についての理解を深めるとともに、指導についての基礎的事項の理解を中心に資質の向上を図る事を目的としている。</p> <p>(1) 開講式 講演・指導主事（総合教育センター）</p> <p>(2) ようこそ特別支援教育の世界へ・江幡正継（玉川大学通信教育部）</p> <p>(3) 班別研修・講師（市立小・中学校）</p> <p>(4) 班別研修・講師（市立小・中学校）</p> <p>(5) まとめ・班別研修・講師（市立小・中学校）</p>	特別支 援学級 等の新 担任者	4/20 5/18 7/13 9/14 10/19	572
829	特別支援学級等新担任者2年目	<p>■ 川崎市特別支援教育推進計画に基づき教員の専門性の向上を目的とした必修研修</p> <p>(1) 開講式 班別研修・（市立小・中学校）</p> <p>(2) 班別研修・（市立小・中学校）</p> <p>(3) 子どもの見方、関わり方1・土屋良巳（上越教育大学）</p> <p>(4) 子どもの見方、関わり方2・土谷良巳（上越教育大学）</p> <p>(5) 子どもの見方、関わり方3・土谷良巳（上越教育大学）</p>	小・中・ 特別支 援学級 等2年 目の担 任	7/26 8/1 8/11	429

830	特別支援教育コーディネータ養成	<p>■ 校内、地域における特別支援教育を推進していく役割に必要な資質、技能を養う。</p> <p>(1) 「校内体制と教育相談」・高木幸江（総合教育センター指導主事）</p> <p>(2) (3) 「保護者との教育相談」・高橋あつ子（早稲田大学大学院）</p> <p>(4) 「特別支援教育コーディネーターが知っておきたいこと」・栗山八寿子（教育委員会指導課特別支援教育担当指導主事）</p> <p>(5) 「演習：事例検討会を開こう」・霜田浩信（群馬大学）</p> <p>(補) 「『広報』コーディネーター便りを発行しましょう」・高木幸江（総合教育センター指導主事）</p>	小・中・高・特の初めての特別支援教育コーディネーター	5/13、7/28、29	266
831	通級指導教室新担任者等	<p>■ 障害のある子どもの見方、指導計画、具体的指導、関わり方についての研修</p> <p>(1) 通級指導教室の位置づけ・吉村亜紀（らんぷあんぷらざ）</p> <p>(2) 通級の役割・井手よし子（総合教育センター）</p> <p>(3) 言語障害の指導・磯崎常子（久本小）</p> <p>(4) 情緒障害の指導 1・三嶋まゆみ（東住吉小）</p> <p>(5) 特別支援教育コーディネーターの役割・高木幸江（総合教育センター指導主事）</p> <p>(6) 情緒障害の指導 2・谷戸ゆきみ（川崎小）</p>	通級指導教室を初めて担任する教員等	4/8 4/15 4/20 4/27 5/13 5/20	180
832	医療的ケア	<p>■ 講義や演習を通して必要な医療的知識や技術を習得する。</p> <p>(1) 重度重複障害児の学習と特別支援学校における医療的ケア・佐藤浩栄（県立金沢養護学校）</p>	田島養護学校教員	12/22	50
833	中学校数学科初任者教員指導力向上	<p>■ 中学校数学科初任者を対象に、指導方法、評価方法等について研修し、指導力の向上を図る。</p> <p>(1) (2) 先端科学教育と環境教育・網屋直昭（総合教育センター指導主事）</p> <p>(3) 学習評価と指導・下田照雄（玉川大学教職センター）</p> <p>(4) 学習指導要領の理解・榎原真也（総合教育センター指導主事）</p> <p>(5) 数学の授業作りの基本・金田昌之（西生田中）</p> <p>(6) 魅力ある授業作り・地曳善敬（玉川中）</p> <p>(7) 小学校算数の授業作り・蟻生寛郎（上丸子小）</p> <p>(8) 学習診断テストについて・寺田一成（野川中）</p> <p>(9) 数学科教師としての基礎・基本・堀江賢治（総合教育センター長期研究員）</p> <p>(10) 初任者指導力向上研修のまとめ・榎原真也（総合教育センター指導主事）</p> <p>(11) 中学校授業研究会 1 稲田中・下田照雄（玉川大学教職センター）</p> <p>(12) 中学校授業研究会 2 有馬中・下田照雄（玉川大学教職センター）</p> <p>(13) 中学校授業研究会 3 橋中・下田照雄（玉川大学教職センター）</p>	中学校数学科初任者	7/21 8/8 8/17 8/19 1/6	120
834	中学校理科初任者教員指導力向上	<p>■ 中学校理科初任者を対象に観察・実験の実技研修等を実施し、早期に指導力の向上を図る。</p> <p>(1) エネルギー環境研修 施設視察・北川浩二（パナソニックセンター東京）</p> <p>(2) 実験実習①②③④・鈴木克彦（白鳥中）</p> <p>(3) 実験実習⑤⑥⑦⑧・鈴木克彦（白鳥中）</p> <p>(4) 実験実習⑨⑩⑪⑫・鈴木克彦（白鳥中）</p> <p>(5) 実験実習⑬⑭⑮⑯・鈴木克彦（白鳥中）</p> <p>(6) 地学研修・成川秀幸（川崎市青少年科学館）</p> <p>(7) 先端科学技術研修・藤嶋昭（神奈川科学技術アカデミー）</p> <p>(8) 先端科学技術研修・日立ハイテク（日立ハイテク）</p> <p>(9) 野外植物観察・永井一雄（川崎市青少年科学館）</p>	中学校初任者理科	7/21 7/25 8/8 8/9 8/10 8/11 12/5 12/27 2/24	145

### 3 情報教育

情報・視聴覚センターでは、「教育の情報化」「校務の情報化」を推進するために市立学校の ICT 機器の整備並びに活用推進、また、学校教育用ネットワーク（ケインズネット、サインズ、川崎市図書館総合システム）の運用管理、情報教育を推進するために児童生徒の情報活用能力の育成および教員の ICT 活用指導力の向上をめざした研究・研修を行ってきた。

#### 1 教員の ICT 活用指導力の向上を図るための研修の実施

##### (1) 夏季研修

文部科学省の「教員の ICT 活用指導力」の新評価基準に対応した研修を行った。

次に研修講座番号、研修講座名、実施回数（参加延べ人数／定員延べ人数）を示す。

101 ICT 活用初級(ワード 2007)	1 回( 18/ 74)	106 デジタル画像入門	2 回(37/72)
102 ICT 活用中級(ワード 2007)	2 回( 74/144)	107 情報モラル教育	1 回(18/36)
103 ICT 活用中級(エクセル 2007)	4 回(188/296)	108 学校・研究会ホームページ作成	4 回(84/144)
104 ICT活用初級(パワーポイント2007)	1回(37/74)	109 校務用コンピュータ活用	1 回(11/36)
105 ICT活用中級(パワーポイント2007)	2回(75/144)		

研修後の受講者のアンケートでは、授業に役に立つ研修であったとの評価がとても多かった。

また、研修内容を実際に授業等で実践し、指導力がアップしたとの報告も多い。

##### (2) 夜間利用研修講座

内容と講座数も精選し、管理職のための学校 Web ページ研修、校務用コンピュータ・暗号化ソフトの活用支援研修等を今年度も引き続き開設した。実施回数（参加延べ人数）

701 ワード 2007	2 回 (2)	706 ICT 授業活用	2 回 (2)
702 エクセル 2007	2 回 (3)	707 校務用コンピュータ活用	4 回(25)
703 パワーポイント 2007	2 回 (1)	708 デジタル画像編集	1 回 (0)
704 学校・研究(部)会 Web	1 回 (4)	709 管理職のための学校 Web	1 回 (0)
705 情報モラルと情報の取扱い	1 回 (8)		

小学校・高校・特別支援校に導入した教材提示装置・ペンタブレットの使い方についての夜間研修を 1 月に 2 回実施し 30 名の参加があった。

##### (3) 情報教育校内研修（出前研修）

コンピュータや ICT 活用、情報セキュリティに関して、学校や教員の要請に応じて行う研修で、指導主事が学校を訪問したり、希望者がセンターに来所したりして教職員のスキルアップに対応した。

501 情報教育校内研修（出前研修）	14 回(373 人)		
（内訳）・校務用コンピュータ活用	6 回(133 人)	・ホームページ関連	6 回(64 人)
・情報セキュリティモラル	6 回(224 人)		

今年度は ICT 機器の使用方法に関する依頼はなかった。これは ICT 支援員により校内で研修が実施されているためと思われる。

#### 2 情報教育の充実に向けた研究の推進

ケインズネットおよび学校に整備された ICT 機器の有効活用、教員の ICT 活用指導力の向上、ネットいじめに代表される情報化の影の部分に対応した情報モラル教育を推進するための研究を行った。また、「わかる授業」の実現に向けた学習指導案やコンテンツ、ビデオ映像教材の開発、Web 教材等の提供を図った。

##### (1) 指導主事研究

「教育の情報化推進計画並びに教育の情報セキュリティポリシーの策定一中・長期的展望に立った ICT 環境の整備を目指して」のテーマのもと、教育の質の向上をめざした情報

化を一層推進していくために「教育の情報化推進計画」を策定した。また、急激な情報化の進展に伴い、児童生徒・教職員の情報モラルや情報リテラシーの向上が急務となっているため、「情報セキュリティポリシー」（基本方針）「同 基準」等を策定し、合わせてこれまでの要綱や要領の見直しを行った。

#### (2) ICT教育利用研究会議（長期研究員と研究員）

「確かな学力を育む授業づくりをめざしてープラスICTでー」をテーマに研究を行った。学習過程を知識・技能を取得する「土台作りの場」とそれらを活用する「交流の場」に分け、この二つを意識した授業づくりを試みた。それぞれの場でICTを効果的に活用することで、よりわかりやすい授業が可能となり、話し合いに深まりがうまれることがわかった。

#### (3) 情報モラル教育研究会議（指導主事と研究員）

「だれにでもできる情報モラル教育」を主題に国立政策研究所が発行している『情報モラル指導カリキュラムチェックリスト』に沿った情報モラル教育の実践研究を行った。研究員と協力して実践的な指導事例をまとめることができた。

#### (4) 共同研究（南百合丘小学校）

南百合丘小学校の研究テーマ「次世代型ICT環境の活用による学力の育成」を基に、学校におけるICT活用の広がりを探るため、電子黒板や携帯端末を活用した実践的研究を行った。共同研究で、より学校と密着した実践的研究を行うことができた。

### 3 市立学校のICT機器の計画的整備

#### (1) 川崎総合科学、橘、高津高等学校の機器入替

特色ある学科を設置している各高校のカリキュラムを効果的に実現するために、これからの5年間の社会情勢を見通した最適な機器をそれぞれのコンピュータ教室等に導入した。

#### (2) 特別支援学校3校の機器入替

4月に特別支援学校3校5拠点に、入替前より21台増となる計75台のコンピュータと周辺機器を整備した。コンピュータは、今後5年間の活用を考慮しスペックの高いものを導入することができた。併せて、図書館総合システムの導入も検討し、24年度に稼働できる状態に準備する予定である。

#### (3) 教材提示装置の整備（小・高・特支学校）

ICTを活用したわかる授業の実現のため、学校より台数増を望む声が多数挙がっている教材提示装置及びワイヤレスタブレットを、小学校・高等学校・特別支援学校各校に3台、計363台を導入した。今後も研修等を通して、有効活用を図りたいと考える。

#### (4) 教育の情報化推進計画の策定

平成22年度のICT機器活用調査結果報告書、各校種代表者によるワーキンググループ、市PTA連絡協議会保護者の要望・意見を伺い、中長期的かつ総合的な教育の情報化や校務の情報化、セキュリティ基本方針についてまとめた。

#### (5) インターネット回線の超高速化、学校回線の超高速化25校

10月にインターネット回線をこれまでの30倍の超高速化とした。また、25校の学校インターネット回線をADSLから光回線に切り替え、累計167校が超高速回線となった。大規模改築等の学校を除き、すべての学校の超高速回線化が実現した。

### 4 川崎市教育情報ネットワーク（ケインズネット）の活用促進

活用されるセンターの一環として、ケインズネット、データベース、Webページの活用促進にむけて次のような業務を推進した。

#### (1) 教育情報データベースの充実

開所時から構築を進めてきた教育情報データベースについての件数は以下のとおりである。今年度より、校務用コンピュータから本データベースを検索できるようにし、蓄積してきたデータベースの活用が促進された。平成24年2月末現在、

- ① 教育関係資料データベースの一次情報 18,786 件
- ② 教育関係資料データベースの二次情報 108,165 件
- (2) **学習指導案データベースの充実と活用促進**

平成 17 年 12 月より、教員が必要とする学習指導案やワークシート、資料を学校のコンピュータから検索して、引き出せるように教科等の指導主事と連携して登録数を増やしてきた。また、校務用コンピュータからの検索、取り出しが可能になったことにより指導案データベースの活用が促進された。平成 24 年 2 月末現在の件数は以下のとおりである。

  - ① 登録指導案件数 3,379 件（昨年より 624 件増）
  - ② 添付資料件数 4,333 件（昨年より 633 件増）
  - ③ アクセス件数 3,538 件（平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 2 月 28 日まで）
- (3) **学校、研究(部)会 Web ページ新規・更新・充実への支援**

すべての市立学校の Web ページをインターネットに公開し定期的に更新することを目指してきた。現在の Web ページ立ち上げ状況は次のとおりである。

  - ① 学校 Web ページ(インターネット公開 177 校 100%達成)
  - ② 研究(部)会 Web ページ(インターネット公開 21、イントラネット公開 31、計 52)
  - ③ 学校評価に関する資料を Web ページで公開している学校数 74 校

5 月から 11 ヶ月間、国の緊急雇用創出事業による「学校 I C T 活用支援員配置事業」を実施し、学校のホームページの更新や公開に支援を行ったところ、ホームページ更新の頻度があがった。また、リクエスト研修として、研究会ホームページ作成・更新研修を 4 回開講した。
- (4) **総合教育センターWeb ページの更新・充実**

センターWeb ページには、イントラネット版とインターネット版があり、今年度は特にイントラネットのコンテンツの整理及び校務用イントラネットへのデータ移行を図った。
- (5) **川崎市図書館総合システムの有効活用**

昨年度から中学校の運用が始まり、中学校担当者を対象とした研修を 6 月（1 回）と 7 月（3 回）に行った。図書館総合システムがより有効活用できるよう回線の不具合に対応したり、システム改善を提案したりしてきた。来年度は、特別支援学校の運用がスムーズに稼働するようシステムとの連携を慎重に進めていく。
- (6) **I C T 活用支援員の派遣**

5 月から 3 月までの 11 か月間、小学校・中学校・特別支援学校に対して、延べ 2,820 回の I C T 活用支援員の派遣を行った。主な業務内容は次のとおりである。

  - ① 学校ホームページの作成・更新サポート
  - ② I C T 活用授業のサポート
  - ③ コンピュータや電子黒板などの周辺機器の操作に関する研修やサポート
  - ④ 教材作成やアプリケーション操作に関するサポート

派遣事業について、継続・拡大を求める声が学校から寄せられている。

## 5 川崎市学校校務用イントラネットシステム（サインズ）の活用促進及び機能強化

サインズから夏季研修等の申し込みを行ったり、トップページに校長会・教頭会のリンクボタンを設定したりして活用を広げてきた。また、研修等を通して、操作方法・情報セキュリティ・重要情報の一元管理について、重要性を説明した。

### (1) 校務支援システム調査・研究の推進

校務の情報化をすすめるために、川中島小学校、高津中学校と共同で、グループウェア及び校務システム導入に向けての調査・研究を進めた。2 年目の今年は、校務システムによる通知表の作成で、校務の効率化を進めることができた。3 月中に、週案システムを稼働し、さらなる効率化を目指す予定である。

### (2) 平成 18 年度導入校務用コンピュータの入替

平成 18 年度導入の校務用コンピュータ 365 台について入替を実施した。その際、教職員の増加に対応するため導入台数を 380 台に増設した。

### (3) 教育の情報化推進計画並びに情報セキュリティ基本方針の策定

教育の情報化推進計画策定に向けた校務ワーキンググループでは、校務支援システムの仕様をまとめ、セキュリティワーキンググループにおいては、システム導入後から直ぐに安全・安心な活用ができるようセキュリティ基本方針や基準、実施手順を策定し、さらに、各種既定要綱等の見直しを行った。

## 6 教職員の情報モラルの徹底と市立学校の情報セキュリティの向上

個人情報等の流失防止の観点から教職員の情報モラルの徹底に取り組んだ。市立学校に整備されたコンピュータやネットワークのセキュリティ向上に努めた。

### (1) 情報流失防止に関する活動

初任者研修会や 10 年経験者研修などの法定研修をはじめ、様々な研修会や会議において個人情報保護の大切さと、個人情報の取扱いについて訴えてきた。また、全国で起きている個人情報流出事故を分析し、個人情報流出防止策の一環として注意喚起した。

### (2) コンピュータウイルス対策に関する活動

コンピュータウイルスを感知して駆除した学校数は、昨年度より 3 割程度減少した。発生した場合にはその都度、学校に状況を確認して対策方法を指導している。今後も、研修会や文書等で対策依頼や発生時の連絡方法等について徹底を図りたい。

### (3) 情報セキュリティ基本方針の策定

情報セキュリティ基本方針や基準を受けて、学校や家庭でのコンピュータやインターネットを活用する際の留意点を、常時携帯できるようまとめ、全教職員へ配布する予定である。

## 7 情報・視聴覚センターの事業を円滑に推進するための関係会議の開催・運営

業務の円滑な運営のために学校や保守業者等との各種会議、委員会において、ケインズネット、学校整備コンピュータの充実と有効活用、情報セキュリティ、視聴覚教材・機器貸出業務の運用等について連絡・調整を行った。

- |                         |      |                                    |      |
|-------------------------|------|------------------------------------|------|
| (1) 情報化推進協議会（校長会・学校）    | 3 回  | (6) 情報化推進担当者会議（センター各室）             | 11 回 |
| (2) 情報教育学校担当者会（全学校）     | 3 回  | (7) 教文及び市民館視聴覚担当者会議                | 1 回  |
| (3) 情報収集活用委員会（研究（部）会）   | 1 回  | (8) 高等学校学務システム検討会議                 | 4 回  |
| (4) 保守定例会（コンピュータ機器保守業者） | 5 回  | （学校業務効率化検討委員会の 1 つのワーキンググループに位置付け） |      |
| (5) ネットワーク定例会（ワーク保守業者）  | 11 回 |                                    |      |

## 8 総合教育センターの機器及び研修室利用実績

今年度の利用実績は次のとおりである。（3 月末現在）

（機器利用実績）

① ビデオ編集機	22 件	72 時間
② ダビング機	23 件	56 時間
③ カラーコピー機	55 件	
④ ノート PC	47 件	
⑤ プロジェクター	38 件	
⑥ ビデオカメラ	67 件	

（研修室利用実績）

① 第 2 研修室	98 件	389 時間
② 第 3 研修室	134 件	471 時間
③ 第 4 研修室	165 件	611 時間
④ コンピュータ研修室	72 件	307 時間

## 4 視聴覚教育

視聴覚センター機能として、7区にある視聴覚ライブラリーとの連携を図り、市民団体や学校の教育・学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業の一層の推進、第29回を迎える「わが町かわさき映像創作展」の充実・発展をめざした。

### 1 視聴覚センター事業の推進

市内7つの視聴覚ライブラリーを調整する視聴覚センターとしての事業を推進した。

#### (1) 視聴覚ライブラリーの運営

教育文化会館や各市民館の視聴覚ライブラリーと、総合教育センター内の視聴覚センターを週3回連絡便で結び、教材等の配送を行った。また、視聴覚機材は、各ライブラリーで管理し、市民団体等へ貸出を行った。

#### (2) 視聴覚教材機材等の整備・貸出

今後の課題はこれまでに貸出している機器類の補修である。

※センターからライブラリーへの視聴覚教材の貸出状況は以下のとおりである。

教 材	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
16mmフィルム 本数	0	6	37	54	26	5	12	0	26	4	5	4	179
ビデオ 本数	6	25	36	109	43	41	75	18	65	89	57	24	588
その他 本数	8	7	14	23	69	27	51	35	38	15	86	11	384
計 本数	14	38	87	186	138	73	138	53	129	108	148	39	1,151

### 2 平和・人権に関する視聴覚教材の選定・購入

平和教育教材等選定委員会を12月6日に開催し、平和教育・人権教育・環境教育等に関する視聴覚教材を選定、19作品を購入した。

### 3 第29回わが町かわさき映像創作展の開催

わが町かわさき映像創作展は29回目を迎えた。事前に案内等の広報活動を行い事業の円滑な推進を図った。また、表彰式及び上映会については2月25日（土）に実施した。

○応募期間 平成23年10月3日～平成24年1月13日

○応募総数 31点（一般応募作品20点・研究会推薦作品11点）

○審査日 平成24年1月24日（火）

○審査員 7名

○表 彰 ・ グランプリ 1点（賞状・トロフィー）

・ 金 賞 1点（賞状・楯） ・ 奨励賞 4点（賞状）

・ 銀 賞 2点（賞状・楯） ・ 特別賞 1点（賞状）

・ 優秀賞 4点（賞状・楯）

○表彰式 平成24年2月25日（土）

○入賞作品

グランプリ

「一枚の写真から ～ある川女生の青春②～」

制作者 川崎高等学校放送部

金賞

「日向山青空教室（伝えるということ）」

制作者 東生田小学校映像クラブ

銀賞

1 「あいさつしていますか？」

制作者 犬蔵中学校放送委員会

2 「夜の学校たんけん」

制作者 向丘小学校映画クラブ

#### 優秀賞

- |                            |                  |
|----------------------------|------------------|
| 1 「情報委員会のわらっていいとも総集編」      | 制作者 南百合丘小学校情報委員会 |
| 2 「ちょっとまって いがいとその手はきたないよ！」 | 制作者 岡上小学校健康委員会   |
| 3 「観音川 ～幻の川を求めて～」          | 制作者 川中島中学校放送部    |
| 4 「多摩川土手 四季の彩り」            | 制作者 佐藤 昌孝        |

#### 奨励賞

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1 「クラスメイト1」          | 制作者 旭町小学校 山中涼香        |
| 2 「けがはどうして治るの？」      | 制作者 下布田小学校 吉原 緑・片岡義順  |
| 3 「福祉『みんなが笑顔になるために』」 | 制作者 久本小学校 4年生         |
| 4 「節水・節電をしよう」        | 制作者 岡上小学校キッズプロジェクト委員会 |

#### 特別賞

- |          |                 |
|----------|-----------------|
| 「日光修学旅行」 | 制作者 東生田小学校映像クラブ |
|----------|-----------------|

#### 4 16mm映写機操作技認定講習会

16mm 映写機操作技術認定講習会を市民館等で、下記の日程で開催した。夏休み前の映画会開催準備の位置づけとしての講習会である。

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| ① 6月 5日（日）宮前市民館 13名  | ③ 7月 10日（日）幸市民館 13名 |
| ② 6月 26日（日）多摩市民館 15名 |                     |

#### 5 映像教材の開発と提供

昨年度に引続き、学校で活用してもらうための映像教材を委託開発した。今後も教材の充実を図っていく。

（今年度開発した映像教材）

- ① かわさきマイスター
- ② 「授業の達人」紹介

## 5 特別支援教育

特別支援教育センターでは、川崎市における特別支援教育体制充実に係わる諸事業の推進と特別な教育的ニーズのある児童生徒本人及びその保護者、教職員等の教育相談や就学指導、特別支援教育に係る教職員等への研修、研究活動の充実等を図った。平成 23 年度の事業の概要は次のとおりである。

### 1 特別支援教育に関する相談・支援の状況 (表 1)平成 23 年度 来所相談件数と終結件数

#### (1) 相談件数

##### ① 来所相談

平成 23 年度の相談件数は、表 1 の通りである。平成 22 年度と比較すると新規相談件数は 15 増、継続は 9 件減少しているが、過去最高の件数となった。

	件数	終結件数
継続	1,181	425
新規	984	436
計	2,165	861

##### (表 2) 主訴別新規来所相談件数

	幼児	小学生	中学生	その他	合計
知能・学業	0	178	39	0	217
性格・行動	0	147	31	1	179
進路・適性	353	142	18	4	517
身体・神経	0	27	0	0	27
他	0	35	7	2	44
合計	353	529	95	7	984

##### (表 3) 障害別新規来所相談件数

障害種別	件数
知的障害	214
視覚障害	5
聴覚障害	18
言語障害	0
病虚弱	14
肢体不自由	31
情緒障害	469
重複障害	8
自閉	181
学習障害	12
ADHD	17
その他	15
合計	984

表 2 の主訴別新規来所相談件数を見ると、22 年度に比べると、進路・適性より知能・学業、性格・行動に関する相談が増加している。また就学にかかわる相談（幼児）が 353 件と数は減少しているものの全体の 35.8%と高い割合になっている。就学に際し、子どもの特性に応じた教育の場を考えていきたいとする保護者が相談を希望することが増えてきたと考えられる。

表 3 の障害別新規来所相談では、23 年度も情緒障害、自閉、学習障害、ADHD が計 687 件、全体の 69.6%とさらに割合が高くなった。

##### ② 学校コンサルテーション

来談者からは、教員の理解や学校の指導方法に対して疑問等を抱く場合、相談機関が関わりあいながら、子どもと保護者、学校への支援を進めていくことは、ますます必要となっている。担任、教科担当、養護教諭などの共通理解をとおして、子どもへの理解を深め、より適切な支援指導を行えるように努めた。

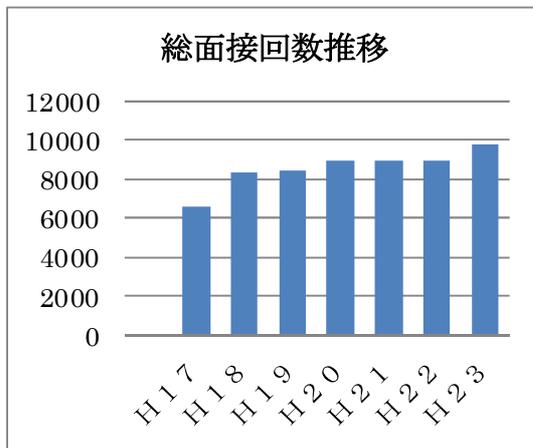
##### ③ 電話相談

特別支援教育に関する電話相談は、教育相談室の電話による教育相談の項に含まれているので、その項を参照していただきたい。

## (2) 面接回数

(表4) 平成23年度 月別・対象別 総面接回数(未)

対象・月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
親	349	373	470	436	481	492	577	553	522	479	599	476	5,807
子	170	206	280	272	330	295	358	326	276	256	360	263	3,402
セッション 来所 訪問	19	33	58	32	25	25	56	52	61	44	56	28	489
	5	1	4	3	1	11	3	8	2	3	1	4	46
計	543	613	813	743	837	823	994	939	861	782	1,016	771	9,735



総面接回数は、14年度は4,481回 23年度は9,735回とこの10年間で倍増、近年は緩やかに増加している。14年度以降、学校教育法等の一部改正や発達障害者支援法の成立等、障害のある子どもをとりまく環境が大きく変化したことも要因となっていると考えられる。それに伴って保護者の障害に対する考え方の変化や、特別支援教育への関心の深まり等も背景にあるのではないかと考えられる。

## (3) ABC けんさ(Assessment of Basic Skills for Challenged Individuals 職業能力適性評価)

当検査は、行動観察や各種の検査を行い、生徒一人一人に応じた適切な学習課題を見つけることや進路指導に役立てること、また個別の教育支援計画を立てるための資料として活用することなどをねらいとして、平成9年度から当センターにおいて実施している。

対象は、特別支援学校高等部の1～2年生であり、基本的に1年生の時に心理検査を、2年生の時に作業能力検査を行った。

心理検査は当センターの職員が学校に訪問し、作業能力検査は当センターの諸施設を使って実施している。

(表5) 参加生徒数

市立養護	87人
田島養護	37人
聾学校	0人
計	124人

## 2 特別支援教育に関する体制・支援の充実

### (1) 就学指導(相談)の充実

#### ① 就学指導委員会の運営

年間3回の就学指導委員会、7回の専門部会を開催し、253件の審議を行った。

(知的障害養護学校小学部 10、聾学校中学部 3、知的障害養護学校中学部 56、肢体不自由養護学校小学部 13、肢体不自由養護学校中学部 13、重複障害特別支援学級 9、特別支援学級 145、その他 4)

養護学校の過密化への対策、障害の重複化・多様化に対応できる施設設備等の整備を含めた保護者の意向と就学先の調整、県立養護学校と市立養護学校等との通学区域の調整など課題が多い。

#### ② 地域就学支援関係機関連絡会・就学説明会

就学相談については南・中・西・北部各地域療育センター、指導課等と連絡会議をもち情報交換など連携を図った上、各療育センターにおいて4回、また療育センターを利用していない保護者のために南部・北部で各1回、就学についての説明会をおこなった。

#### ③ 中学校・特別支援学校進路相談連絡会

特別支援学校高等部(知的障害教育部門)の入学者選抜について、県教育委員会と連携を図り、本市においても中学校特別支援学校連絡会との連絡を密にし、事前の進路指導や調整に努めた。

#### ④ 通級指導教室対象児生徒入級審査会の運営

年間11回の通級指導教室入級審査会を開催し、563件の審議を行った。5月1日現在小学校言語通級指導教室に410名、小学校情緒障害通級指導教室に373名、中学校情緒障害通級指導教室に75名、難聴通級指導教室に20名の児童生徒が通級している。

#### ⑤ OT研修

作業療法士が、市立養護学校・田島養護学校・聾学校及び重複障害特別支援学級(たんぼぼ学級)のある大戸小学校・稲田小学校・麻生小学校、さくら小学校重複障害グループを巡回し、機能訓練を実施した。

## (2) 特別支援教育体制充実事業の推進

川崎市立の小・中学校の通常の学級及び高等学校に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症等の児童生徒に対する学校としての支援体制整備を図るために、特別支援教育体制充実事業を実施している。

23年度は、小、中、高、特別支援学校において、初めて指名を受けたコーディネーター教職員に、コーディネーター養成研修を年6回実施し、受講修了者は52名であった。また、各校へは臨床心理士を巡回相談員として年間180回分の計画派遣を行い、特別支援教育に熟達した退職教員を巡回指導員として年間265回派遣した。更に、全校のコーディネーターを対象に特別支援教育コーディネーター連絡協議会の開催を年間4回実施し、特別支援学校地域支援部との連携や各校の情報交換等を図った。

各学校においては、全校に特別支援教育校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名が共に100%となっている。23年度校内委員会で協議された児童生徒数は、小学校4,301ケース(全児童数の6.23%)、中学校824ケース(全生徒数の3.0%)、高等学校50ケースであった。今後も、学校を支える地域資源(巡回相談員・巡回指導員・特別支援学校地域支援部・通級指導教室・学生派遣など)の体系的な支援システム等について協議していきたい。

## (3) 特別支援教育サポート事業

NPO教育活動総合サポートセンターに委託し、特別支援サポーターへの研修を4回実施。特別支援教育サポート事業の推進に努め、小学校113校248名、中学校41校76名を配置した。

### 3 特別支援教育推進計画の推進

「川崎市特別支援教育推進計画」「かわさき教育プラン第2期実行計画」に基づいた以下の事業を展開した。

#### (1) 小・中・高等学校における特別支援教育の推進

23年度は、小・中学校校内委員会で協議された児童生徒数は、合計 5,125 ケース(全児童生徒総数の 5.22%)と前年度の 5,685 ケース(5.63%)から減少しているが、担任が子どもの困り感に気づく力は定着している。各校の相談窓口の明示や広報発行については前年度と変わらないものの、特別な教育的ニーズのある児童生徒について協議することは確かなものになってと考えられる。外部との連携については、巡回相談員、巡回指導員、特別支援学校地域支援部の学校派遣等、各学校からの支援要請の多様化も見られてきた。

#### (2) 特別支援学校の機能拡充と特色ある学校づくり

県立を含む7校の特別支援学校による「特別支援学校地域連絡会議」を3回開催し、支援地域の分担や支援内容を明確にした上で、特別支援学級への支援 150 回、通常の学級への指導支援 351 回、公開研修(62 講座)等を実施した。

医療的ケアについては、田島養護学校において看護師を配置し、職員研修1回、担当職員研修1回(実技研修のフォローアップ)、看護師研修2回(講義と重症心身障害児施設ソレイユ)等を実施した。

#### (3) 乳幼児期から学校卒業後まで一貫した相談支援体制について

特別支援連携協議会(機関横断型の障害のある子どもの継続した相談・支援体制を検討)に参加し、サポートノート(個別の教育支援計画)の理解啓発と普及・活用等について協議した。

#### (4) 特別支援教育に関する諸課題の研究協議に関すること

特別支援教育問題研究協議会を年4回実施し、特別支援教育推進計画、特別支援教育体制充実事業等の進捗状況、一貫した相談支援体制のあり方等について協議を行った。

### 4 特別支援教育の研修・研究の充実

#### (1) 必修研修・専門研修

必修研修として特別支援教育コーディネーター養成研修の他に、文部科学省の必修研修である特別支援学級等新担任者研修 135 名の他、特別支援学級等新担任者2年目研修 88 名通級指導教室新担任者研修名を必修研修として実施した。

専門研修として特別支援教育マネジメント研修6講座に延べ 113 名、特別支援教育コーディネーターステップアップ研修6講座延 138 名、通級指導教室専門研修4講座に延 80 名が受講した。

また、特別支援教育校内研修は、計 17 回の申込みがあり 438 名の教職員が受講した。内容は、LD・ADHD・高機能自閉症等についての理解と実態把握、指導の実際、ケース会議の持ち方等、校内支援体制の構築等であった。

## **(2) 特別支援学校連携研修**

市内特別支援学校において、公開研修として「発達障害のある子どもの理解と支援研修」及び「特別支援教育専門研修」等 57 講座 2,986 名の参加であった。

## **(3) 指導主事研究、研究員研究会議**

指導主事研究として「通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対しての特別支援教育体制の整備」をテーマに設定した。コーディネーターへのアンケート調査による各校の実践状況の把握や専門家チーム会議との有効な連携システムの構築、高等学校における特別支援教育の体制について研究を進めた。次年度の特別支援教育体制充実事業の方向性を検討に資することができた。

また、研究会議を設置し、「通常の学級における特別支援教育～地域支援チームと連携した有効な学校支援の方策～」をテーマに小学校における特別支援教育について課題や今後の方向性について研究を行った。

## 6 教育相談

教育相談センターでは、来所面接及び電話による教育相談、教職員の教育相談に関する研究・研修、不登校児童生徒への援助、また、その一環として、「みゆき」「さいわい」「なかはら」「たま」「あさお」の5カ所のゆうゆう広場（川崎市適応指導教室）の運営及び不登校家庭訪問相談事業を行っている。さらに、17年度からはスクールカウンセラー配置事業、不登校対策推進事業「フレンドシップかわさき」、19年度からは、学校巡回カウンセラー派遣事業、「問題を抱える子ども等の自立支援事業」も行っている。

### 1 教育相談事業の実施状況

#### (1) 来所面接相談の実施状況

##### ① 来所面接相談件数

表1は平成23年度の来所面接相談（教職員の相談は除く）の状況である。教育相談件数351件の内、221件が平成24年度に継続されることになった。

〔表1-1 平成23年度 来所面接相談件数と終結件数〕

	相談件数			終結件数			平成24年度への継続件数		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計
継続	99	142	241	36	67	103	63	75	138
新規	48	62	110	15	12	27	33	50	83
合計	147	204	351	51	79	130	96	125	221

〔表1-2 表1より取り出した不登校・いじめ絡みに関する来所面接相談件数と終結件数（再掲）〕

		相談件数			終結件数			平成24年度への継続件数		
		男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計
不登校	継続	67	97	164	22	49	71	45	48	93
	新規	25	40	65	3	4	7	22	36	58
いじめ絡み	継続	8	2	10	5	1	6	3	1	4
	新規	2	2	4	0	1	1	2	1	3

##### ② 来所面接相談総回数

表2は月別、対象別の来所面接相談総回数である。新規に申し込みがあった来所面接相談については10日以内に担当者から連絡し、早期対応に努めている。また、ゆうゆう広場については、その特徴を理解した上で通級してもらうために、不登校児童生徒や保護者を対象に専任教諭が、事前相談を実施している。

〔表2 月別、対象別 来所面接相談総回数〕

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
		来所面接相談	教育相談室	親	209	215	228	215	184	219	255	239	239		215
子	123			113	124	121	134	121	130	106	133	128	152	164	1,549
教職員	3			0	2	2	1	3	5	2	4	1	3	2	28
ゆうゆう広場	事前相談		18	12	15	6	7	19	15	16	9	8	13	13	151
	通級相談		5	14	8	8	1	3	9	12	9	4	5	5	83
	継続相談		22	24	30	35	31	37	27	39	46	41	56	45	433
合計		380	378	407	387	358	402	441	414	440	397	463	479	4,946	

③ 学校への出張相談（学校コンサルテーション）

学校コンサルテーションは、学校からの要請等により指導主事等が学校を訪問し、教職員を対象にして行う相談のことである。

〔表3 月別、教職員への出張相談回数〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
学校コンサルテーション	1	1	0	0	0	10	16	0	10	1	1	3	43

④ 新規来所面接相談の相談内容

〔表4 新規来所面接相談の相談内容の内訳〕

	小学生	中学生	高校生	その他	合計	相談件数に占める割合
知能・学業	0	0	0	0	0	0%
性格・行動	18	6	4	0	93	84.6%
進路・適性	1	8	0	0	9	8.2%
身体・神経	3	1	0	0	4	3.6%
その他	4	0	0	0	4	3.6%
合計	26	15	4	0	110	
不登校（再掲）	31	30	3	1	65	59.0%
いじめ絡み（再掲）	1	3	0	0	4	3.6%

(2) 電話による教育相談の実施状況

電話相談は、2007年1月15日より緊急を要する相談にも即応するために、休日を含めた24時間電話相談を継続実施している。

① 電話相談件数及びその内容（午前9時～午後6時）

〔表5-1 電話相談件数及びその内容と内訳〕

	小学生	中学生	高校生	その他	合計
知能・学業	11	8	0	0	19
性格・行動	123	92	17	2	234
進路・適性	28	22	5	1	56
身体・神経	28	6	3	3	40
その他	215	108	36	31	390
合計	405	236	61	37	739
不登校（再掲）	29	59	10	0	98
いじめ絡み（再掲）	14	9	1	1	25

② 子ども本人からの電話件数（午前9時～午後6時）

〔表5-2 表5-1のうち子ども本人からの電話件数及び内訳（再掲）〕

	いじめ	友人関係	進路	不登校	その他	合計
小学生	4	6	0	1	10	21
中学生	2	4	0	1	8	15
高校生	0	2	0	0	2	4
その他	0	0	0	0	7	7
合計	6	12	0	2	27	47

### ③ 24時間電話相談件数

24時間電話相談の夜間（午後6時～午前9時）の時間帯の電話相談件数

〔表5-3 夜間電話相談の相談者別件数〕（平成23年4月～平成24年3月）

	小学生	中学生	高校生	保護者	その他	合計
件数	10	10	31	136	112	306

## 2 研究・研修の状況

### (1) 研究

- ① 学校教育相談研究会議
- ② カウンセラー研究員による研究
- ③ 指導主事研究

### (2) 研修

- ① 教育相談306～310研修コース
- ② 教育相談校内研修（502研修コース）
- ③ 不登校対策事例検討会（713研修コース）

### (3) その他

- ① 教育相談宿泊研修
- ② 新規採用教員研修での教育相談研修

## 3 「不登校」家庭訪問相談事業

家に引きこもりがち不登校児童生徒の保護者の要請を受けて、家庭に出向き相談活動を行っている。平成16年度からは、3名の家庭訪問相談員で実施している。また、保護者の希望によりメンタルフレンド（学生ボランティア）が同行することもある。

〔表6-1 平成23年度 家庭訪問相談状況〕

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問回数	142	371	161	674
訪問以外回数	8	38	54	100
合計	150	409	215	774
メンタルフレンド回数	0	0	0	0

〔表6-2 平成23年度 実施後の状況〕

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問件数	4	19	10	33
学校復帰者数	3	10	6	19
好ましい変化	1	3	2	6

## 4 問題を抱える子ども等の自立支援事業

川崎市では、平成22年度の不登校数が、小学校で213人、中学校では1,140人に上り、依然として大きな課題となっている。特に中学校の出現率は4.08%と全国の数値を大きく上回っている。不登校対策として様々な取組みを行っている中に適応指導教室があり、市内5か所で運営している。適応指導教室では、教育相談や学習活動、体験活動等の多様な活動を通して、子どもたちの心のエネルギーを高めることに力点を置き、学校復帰を目指している。毎年多くの子どもたちが学校への完全復帰または、週に数回程度の登校ができるようになってきている。適応指導教室へ通級している児童生徒たちが、学校復帰するためにはどのような支援がより効果的であるか、また、学校や関係機関と有効な連携の在り方はどうあるべきかについて実践研究を進めている。

## 5 ゆうゆう広場の活動状況

平成5年9月に開設され、19年目を迎える川崎市適応指導教室は、平成7年度より「ゆうゆう広場」という名称で活動している。現在「ゆうゆう広場みゆき」「ゆうゆう広場さいわい」「ゆうゆう広場なかはら」「ゆうゆう広場たま」「ゆうゆう広場あさお」の5つの広場を運営している。各ゆうゆう広場には、

教育相談員が5名ずつ配置され活動に当たっている。さらに18名のメンタルフレンドが、週1回の割合で来室し、通級している子どもの活動の援助を行っている。

## (1) 通級状況

[表7-1 平成23年度 学年別、男女別 通級者数]

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	小計	合計
男子	0	0	1	0	2	4	7	16	22	37	75	82
女子	0	0	0	1	0	3	4	14	28	32	74	78
合計	0	0	1	1	2	7	11	30	50	69	149	160

[表7-2 平成23年度 行政区別、男女別 通級者数]

	みゆき			さいわい			なかはら			た ま			あさお			合計
	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子	小計	
川崎	5	8	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
幸	4	5	9	12	7	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
中原	0	1	1	7	2	9	9	4	13	0	0	0	0	0	0	23
高津	0	0	0	0	2	2	5	7	12	2	2	4	0	0	0	18
宮前	0	0	0	0	0	0	8	6	14	3	7	10	1	3	4	28
多摩	0	0	0	0	0	0	1	3	4	16	12	28	2	3	5	37
麻生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	6	13	13
合計	9	14	23	19	11	30	23	20	43	21	21	42	10	12	22	160

[表7-3 平成23年度 復帰者数]

小学生	中学生	合計
0	53	53

※ ここでの復帰とは、学校へ週1回以上登校した状態である。

[表7-4 中学校3年生の進路状況]

公立			私立 (サポート校を含む)			専門学校	就職	フリースクール	未定	合計
全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制					
1	11	5	8	2	34	0	3	0	5	69

## (2) 体験活動

ゆうゆう広場全体の取組としてサマーキャンプ、親子ふれあい活動、そのほか広場ごとに講師を招いた各種の体験活動が行われた。

[表8-1 平成23年度 参加者数]

サマーキャンプ (1泊2日)	45
----------------	----

[表8-2 平成23年度 参加者数]

春の親子ふれあい活動 ( 5月)	71
秋の親子ふれあい活動 ( 10月)	67

## 6 スクールカウンセラー配置事業

平成17年度より市内51校の中学校にスクールカウンセラーを継続配置している。

- ・ スクールカウンセラー連絡協議会・研修会開催日
  - ① 5月16日(火) ② 7月7日(木) ③ 11月30日(水) ④ 2月24日(金)
- ・ 緊急支援のためのスクールカウンセラー派遣回数 6回

[表9 平成23年度 スクールカウンセラーによる相談内容別延べ人数]

	不登校	いじめ	友人	家族	性格	学習・進路	非行	発達	その他	合計
合計	6,571	120	903	1,406	979	861	176	1,873	9,240	22,129

## 7 学校巡回カウンセラー派遣事業

巡回カウンセラー7名を総合教育センターへ配置し、市立小学校・高等学校への派遣や、市立中学校の緊急的な要請に対して派遣を行った。

[表10 平成23年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談延べ人数]

	保護者	児童生徒	教員	合計
小学校	282	58	95	435
中学校	0	0	0	0
高等学校	29	345	107	481

## 8 不登校対策推進事業「フレンドシップかわさき」

不登校の総合的対策事業として平成16年度より立ち上げられた「フレンドシップかわさき」は、平成17年度より指導課から総合教育センターへ業務移管され継続している。「フレンドシップかわさき」は次の3点について実践研究を進めている。

### (1) 不登校の予防・解決を図るための校内体制づくり

小学校15校に「心のかけはし相談員」を配置し、「心のかけはし相談員」と中学校へ配置された「スクールカウンセラー」を活用し、校内の体制づくりを図った。

### (2) 小中学校間のよりよい接続等を図るための連携・協力のあり方

7中学校区の小学校16校、中学校7校を小中連携不登校対策研究実践校とした。

### (3) 学校と不登校対策にかかわる施設や関係機関との連携強化による、総合的対策の構築

不登校対策にかかわる施設や機関の代表63名で、年3回不登校対策連絡協議会を開催し、連携強化を図った。また、教育委員会と民間施設(NPO法人)との協働で不登校のための進路情報説明会を実施した。

## 7 外国語指導助手配置

国際化時代における英語教育の改善・充実と、国際理解教育を推進するため、外国語指導講師(Assistant Language Teacher, ALT)を業務委託して、中学校・高等学校を中心に小学校や特別支援学校やゆうゆう広場に配置している。

平成23年度のALTは、小学校に35名、中学校に22名、高等学校に5名の計62名を以下のように配置した。

### 1 校種別訪問の状況

- (1) 高等学校 5名のALTが市立高校5校に専属配置された。
- (2) 中学校 22名の中学校担当ALTが、一人あたり2～4校を分担し、1週間～数週間継続して同一校を訪問し、ローテーションを行った。
- (3) 小学校 35名の小学校担当ALT(うち1名は、中学校と兼任)が一人あたり3～5校を分担し、主に曜日毎に訪問校を割り振り、訪問した。
- (4) ゆうゆう広場 平均すると各広場に毎月1回程度訪問を行った。
- (5) 特別支援学校 希望により、学期に1回程度訪問を行った。

### 2 訪問形態

- (1) 高等学校へは、年間を通じて専任のALTを配置した。
- (2) 中学校は、市内51校を学級数が均等になるようグループ分けをし、各校の話し合いにより、配置予定を決定した。
- (3) 小学校についても中学校と同様にグループ内の5・6年の学級数が均等になるようグループ分けをし、各校の外国語活動実施曜日に合わせ、配置を行った。
- (4) ゆうゆう広場や特別支援学校は、配置希望日が少ないのでなるべく要望に添えるよう、主に中学校の訪問予定を調整し、配置を行った。

### 3 訪問校における活動内容

- (1) 授業内における児童生徒への英語指導。
- (2) 教材作成、指導案作成への協力。
- (3) 学校行事や国際理解を推進するために必要と認められる諸活動への参加。
- (4) 英語に関する行事の審査員など。
- (5) 特に小学校では、英語以外の授業でも国際理解を推進するために活用。

### 4 その他

新学習指導要領では、その目標が小学校から高等学校まで「コミュニケーション能力の育成」という言葉で繋がりを持った。そのための授業改善が求められ、英語母国語(またはそれに準ずる)話者の需要が高まっている。このため、23年度のALTの数が昨年度の55名から62名へと増員された。これにより、各学校での英語指導がより充実したものとなった。

## 8 海外帰国・外国人児童生徒

### 1 海外帰国・外国人児童生徒の教育相談

平成 23 年度のセンターへの来所相談は、113 件で、内訳は帰国児童生徒の編入学相談や進路に関する相談などが 17 件、外国人児童生徒の編入等に関する相談が 96 件あった。

来所相談以外に、電話や電子メールによる相談を、市外、海外からのものを含めて 284 件（うちメール相談 13 件）受け付けた。中には、繰り返し電話相談が必要なケースもあった。帰国児童生徒関係の相談では、メール・電話の相談を充実させることによって、来所しなくても済むケースもあった。

帰国児童生徒の中には、長期に海外に滞在していたために日本の生活習慣になじむのに苦労したり、日本語指導が必要となったりするケースもある。

また、外国人児童生徒の中には、長期間保護者と離れて母国で過ごし、急に来日することになったケースや保護者の留学や研修の都合で来日したケースなどがあり、個々の事情はさまざまである。全体としては、川崎区に多く在籍しており、国籍別では、フィリピン・中国が多い。

これらの児童生徒の指導には、日本語指導等協力者派遣事業や市内日本語教室などが大きな役割を果たしている。

### 2 日本語指導等協力者派遣事業

日本語指導が必要な児童生徒のために、母語を理解できる日本語指導等協力者を派遣し、初歩の日本語指導や適応のための補助的指導をしている。平成 23 年度の派遣対象児童生徒数は、前年度からの継続者も含めて 203 名であった。平成 22 年度と比較すると 1 名減少した。

登録している日本語指導等協力者は約 179 名で 10 ヶ国語に対応している。

### 3 日本語教室

日本語指導が必要な外国籍の児童生徒が 5 名以上在籍する学校に日本語教室（国際教室）を設置することができる。通常の学級に在籍をしながら必要に応じて、日本語指導や教科指導を受けることができる教室で少人数の温かい雰囲気があり安心できる場になっている。平成 23 年度は京町小、川崎小、宮前小、富士見中、川崎中の 5 校に設置された。

## 9 **カリキュラムセンター事業**

カリキュラムセンターでは、調査研究や教職員に対する研修、要請訪問、講師派遣、資料の作成・収集及び提供、カリキュラム相談等の各種業務の推進を通して、各学校のカリキュラム開発を支援した。調査研究、研修、外国語指導助手配置、海外帰国・外国人児童生徒事業を除く平成23年度の主な事業の概要は、次のとおりである。

### 1 **各教科等に係る指導・支援事業**

- (1) 各学校・研究（部）会の要請に応じて、各教科等の指導主事を随時派遣した。（延べ782回）
- (2) 学校の要請に応じて指導主事をチームで派遣する拡大要請訪問を24回実施した。
- (3) 各教科等に係る指導業務並びに関連業務の実施により、各学校の教育課程の編成を支援した。
- (4) 学習評価の考え方及び指導要録記入の手引きを作成し、各学校の学習評価の取組を支援した。

### 2 **資料の作成・収集及び提供、カリキュラム相談事業**

- (1) 学習指導案等の資料の収集  
ケインズ・サイنزネット上の「学習指導案データベース」に、各学校や研究（部）会等から収集した学習指導案やワークシート等の資料を公開している。
- (2) 教育情報サロン（かわさきT's・スクエア）の管理・運営、カリキュラム相談  
学習指導案やカリキュラム開発に係る書籍・研究資料、ICT機器等を整備するとともに、指導主事や教育相談員等によるカリキュラム開発に係る相談を行った。

### 3 **喫緊の重要課題対応事業**

- (1) 授業力向上支援事業  
研究協力校7校（小学校：4校、中学校：3校）の研究協力校とともに、指導方法の改善や教師の授業力向上に係る実践研究を推進した。授業力こだわりハンドブックⅡの作成を通して、その成果と活用について各学校に発信した。
- (2) 川崎市学習状況調査・学習診断テスト  
小学校5年を対象に学習状況調査、中学校全学年を対象に学習診断テスト（うち2年生には学習意識調査も実施）を実施し、その結果を分析・考察した報告書を作成し、各学校に配付した。

### 4 **教育課程事業**

- (1) 小・中学校教育課程研究会  
○第1回（授業研究） 6/8(水)、6/10(金)、6/14(火)、6/15(水)、6/17(金)  
○第2回（研究報告・協議） 8/17(水)、8/18(木)
- (2) 高等学校各教科等研究協議会  
各教科等の授業研究や研究協議を2回（6、11月）実施した。
- (3) 小・中学校総則・委託研究  
①小・中学校総則研究資料「川崎らしさを生かした教育課程編成のための資料Ⅰ」を作成し、全教員に配付した。  
②小学校の各教科等の学習指導事例集『生きる力』をはぐくむ学習指導と評価の工夫改善Ⅰ」を作成し、全教員配付した。  
③中学校の各教科等の学習指導事例集『生きる力』をはぐくむ学習指導の工夫と改善Ⅳ」を作成し、全教員に配付した。

## 5 人権尊重教育事業

- (1) 子どもの権利学習資料を作成し、小1、小5、中1の全児童生徒に配付した。
- (2) 「はたらくひとびと」学習資料を作成し、小1の全児童に配付した。
- (3) 人権教育移動教室を要請のあった学校において開催した。(23年度実績：10回)
- (4) 「ともに生きる」を作成し、全校に配付した。
- (5) 日本語を母語としない中学生への公立高等学校進学説明会(ガイダンス)を開催した。11/12(土)

## 6 学校教育支援事業

### (1) 研究研修講師派遣事業

特色ある教育課程編成を支援するため、各学校や研究(部)会の要請に応じて大学教授等の専門講師を派遣した。(23年度実績：41回)

### (2) 理科支援員配置事業

小学校理科教育の活性化と教員の指導力向上を図るため、全校の5・6年生の理科授業に理科支援員を配置した。

### (3) 教育課題研究

「教育課題研究XIV」を作成し、全教職員に配付した。

### (4) 研究推進校事業

#### ①各教科等・教育課題

○22・23年度研究推進校 小学校：9校 中学校：18校 (16研究)

○23・24年度研究推進校 小学校：11校 (13研究) 高校：1校 特別支援学校：1校

#### ②異校種間連携

○22・23年度研究推進校ブロック 中高連携：1ブロック 高大連携：2ブロック

#### ③人権尊重教育 22・23年度研究推進校 小学校1校 中学校1校

### (5) 「輝け☆明日の先生」養成事業

本市の教員を志望している大学生等や、現在本市の学校に在職している臨時的任用教員や非常勤講師の資質や指導力向上を目指した研修を、「NPO法人教育活動総合サポートセンター」に事業を委託して実施した。

## 7 指導改善研修事業

教科や学級経営に関する専門的な知識や技能が不足し、児童生徒との信頼関係が構築できていない教員を対象に、資質・力量の向上を目指した特別研修を実施した。

## 8 横浜国立大学との連携事業

- (1) 客員教授として月2回派遣している指導主事が、大学において一般教養講座を担当した。
- (2) アドバイザリースタッフ派遣事業として教授等の派遣を受けた。
- (3) テレビ会議システムを活用し、当センターにおいて教員免許更新講習(必修の「教育の最新事情に関する事項」)を2回(8月)に実施した。
- (4) 連携講座、教員養成フォーラムの開催等

## 9 その他

### (1) 各種指導事務の実施

○学籍・指導要録等の公簿管理 ○21研の実施 ○教科書採択 ○中学校進路指導

○教育実習・サービ斯拉ーニング ○表彰・推薦 ○各種作品展 ○本物の舞台芸術

○子どもの音楽活動推進事業 ○読書のまち・かわさき ○夜間学級の運営

### (2) 国の委託事業として中学校夜間学級調査研究事業の実施

## 10 広報及び刊行物等

### 1 川崎市総合教育センター所報

- [発行] 平成23年6月、11月  
[発行部数] 6,500部（A4版）  
[主な記事] 第1号「各室の業務と担当者の紹介」  
「平成23年度研究推進校一覧」  
「かわさきT'S・スクエア」  
第2号「授業力こだわりハンドブック」  
「学校・学級で連携できる人的支援」

### 2 総合教育センター要覧 平成23年度

- [発行] 平成23年6月  
[発行部数] 700部（A4版）  
[主な内容] 設立趣旨、沿革、特徴、組織・機構、事業内容

### 3 その他の刊行物

No	種 別	発行月	規格	ページ数	部 数
1	事業報告書	6月	A4	47	600
2	ともに生きる ～多文化共生の社会をめざして～	4月	A4	53	1,000
3	はたらくひとびと（職業理解資料）	3月	A4	18	17,000
4	はたらくひとびと活用事例集	3月	A4	32	1,500
5	みんな輝いているかい 指導資料	9月	A4	24	700
6	わたしもあなたも輝いて 指導資料	9月	A4	24	500
7	かがやき 小1 （子どもの権利学習資料）	10月	A4	8	16,000
8	みんな輝いているかい 小5 （子どもの権利学習資料）	10月	A4	24	16,000
9	わたしもあなたも輝いて 中1 （子どもの権利学習資料）	10月	A4	24	11,000
10	教育課題研究XIV	3月	A4	24	6,400

No	種 別	発行月	規格	ページ 数	部 数
11	川崎の気象	3月	B 5	40	400
12	小学校 「生きる力」をはぐくむ学習指導 と評価の工夫・改善 I	3月	A 4	600	冊子9,000 CD 3,800
13	中学校 「生きる力」をはぐくむ学習指導 の工夫と改善IV	3月	A 4	36	8,560
14	小・中学校 川崎らしさを生かした教育課 程編成のための資料 I	3月	A 4	90	6,000
15	みんなで学ぼう みんなで語ろう (定時制入学案内)	10月	A 4	8	2,800
16	高等学校の教科領域等の指導において 一層の創意工夫を図るための資料	7月	A 4	92	900
17	川崎市立高等学校教育実践の記録	1月	A 4	100	900
18	夢を育てよう	5月	A 4	4	12,000
19	研究紀要 第24号	5月	A 4	194	400
20	研修案内	4月	A 4	85	500
21	研修一覧	4月	B 2	1	300
22	副読本かわさき2012	3月	A 4	206	13,700
23	Q & A 海外帰国・外国人児童生徒指導の手 引き	3月	A 4	39	250
24	初任者研修の手引き	4月	A 4	64	700
25	はじめて教員になった人のために	4月	A 4	97	900
26	初任者研修 研修ノート	4月	A 4	46	900
27	初任者研修 宿泊研修のしおり	7月	A 4	36	600
28	10年経験者研修の手引き	4月	A 4	32	500
29	10年経験者研修 研修ノート	4月	A 4	40	500
30	川崎市小学校学習状況調査報告書	9月	A 4	101	430
31	川崎市中学校学習診断テスト報告書	2月	A 4	280	200
32	平成23年度中学校数学初任者研修報告書	2月	A 4	40	100
33	平成23年度中学校理科初任者研修報告書	3月	A 4	30	100
34	平成23年度 川崎市小・中学校教育基本調査報告書	3月	A 4	51	3,200

No	種 別	発行月	規格	ページ数	部 数
35	小学校体育指導の手引き	3月	A 4	164	300
36	平成23年度川崎市立学校理科支援員配置事業（報告書）	3月	A 4	116	150
37	中学校における学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き	1月	A 4	35	5,500
38	教育相談宿泊研修実践記録集	3月	A 4	42	300
39	スクールカウンセラー配置事業報告書	3月	A 4	102	135
40	川崎市適応指導教室 ゆうゆう広場の活動報告	3月	A 4	20	300
41	不登校対策事業「フレンドシップかわさき」事業報告	3月	A 4	46	200
42	特別支援教育推進モデル校実践報告	3月	A 4	35	300
43	川崎市特別支援教育体制充実事業 事業報告	3月	A 4	35	300
44	教育の情報化推進計画	3月	A 4	61	1,000
45	生き生きとした子どもを育てるために （研修用資料）	4月	A 4	37	250

#### 4 資料の収集・整備

収集	研究・研修用教育図書
	市内各学校の要覧、案内及び校内研究報告書
	市内小・中・高校の各研究会発行の紀要等
整備	市内小・中・高校の教科書

平成23年度 事業報告書

平成24年6月

編集 川崎市総合教育センター

発行 川崎市高津区溝口6丁目9番3号

E-mail [KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp](mailto:KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp)



KAWASAKI CITY

---

川崎市